学科: 柔道整復科

터므션	AND THE AND THE BAD	必修	必修	年次	2	担当教員	角 静香
科目名 (英)	病理学概論 (IPathology)	選択	2015	+4	2	実務経験	0
120	(Ir actiology /	授業	- At the	総時間	60	開講区分	前期·後期前半
コース	共 通	形態	講義	(単位)	3	曜日·時限	月曜3限、木曜1・2限

【授業の学習内容】

病理学 全国柔道整復学校協会 監修

病気になるとはどういうことなのか、どのような機序で病気が起こるのか。生理学の内容をもとに、そこが正常に機能しなくなることで、どのような結果が起こるのかを理解する。また説明できるようになる。

※実務経験

歯科医師。九州大学歯学部附属病院・山田歯科にて臨床に携わる。

【到達目標】

各分野において、どのような状態、機序、結果につい各々を説明できる。 外因(栄養障害、物理的外因、凍傷、化学的物質) 退行性病変(萎縮、脂肪変性、糖原変性、母斑、メラノーマ、黄斑、壊死、アポトーシスとの相違、老化、死)、循環障害(血栓、塞栓、浮腫)、退行性変性(移植)、炎症、免疫異常、アレルギー、腫瘍、先天性異常について説明できる。

	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション 病理学の意義
2回目	病因(内因・外因)について説明できる
3回目	病因(内因・外因)について説明できる
4回目	病因(内因・外因)について説明できる 確認テスト
5回目	退行性病変について説明できる
6回目	退行性病変について説明できる
7回目	退行性病変について説明できる 確認テスト
8回目	代謝障害と疾病について説明できる
9回目	代謝障害と疾病について説明できる 確認テスト
10回目	循環障害について説明できる
11回目	循環障害について説明できる
12回目	循環障害について説明できる 確認テスト
13回目	進行性病変について説明できる
14回目	進行性病変について説明できる 確認テスト
15回目	炎症について説明できる
16回目	炎症について説明できる
17回目	炎症について説明できる 確認テスト
18回目	免疫異常・アレルギーについて説明できる
19回目	免疫異常・アレルギーについて説明できる
20回目	学期末試験
21回目	前期の復習
22回目	腫瘍について説明できる
23回目	腫瘍について説明できる
24回目	腫瘍について説明できる
25回目	先天性異常ついて説明できる
26回目	先天性異常ついて説明できる
27回目	先天性異常ついて説明できる
28回目	病理学全範囲の復習①
29回目	病理学全範囲の復習②
30回目	定期試験
20回日	是州 武农
準備学習 計間外学習	病理学は正常でない状態を意味するため、正常である生理学の理解が不可欠です。生理学の復習が必要です。
評価方法	筆記試験(100%)
	病気の原因やその機序を学んでいく科目です。理解を深めるためにも正常な状態をきちんと知ることが大切です。毎回の授業はながりがあるので、欠席のないよう注意してください。

学科: 柔道整復科

科目名	社会保障制度	必修 選択	必修	年次	2	担当教員: 舘川 大輔 実務経験: O
(英)	(Social Security System)	授業	京北 3 00	総時間	20	開講区分 後期後半
コース	共 通	形態	6再 手戈	(単位)	1	曜日·期限

【授業の学習内容】

日本の社会保障制度の概要を学び、併せて柔道整復師の療養費制度と請求の基礎を学ぶ。さらに、臨床の現場で必要となる療養費支給申請について、具体例を用いて支給申請書の作成を試みる。

※実務経験 接骨院・整形外科にて8年勤務

【到達目標】

社会保障制度の内容、社会保障の現状、日本の保健医療の内容を理解する。また、柔道整復師が取り扱う各種保険の 種類やの受領委任制度を理解する。

	授業計画·内容
1回目	社会保障制度
2回目	医療保険制度
3回目	療養費
4回目	障害者保障
5回目	児童福祉法
6回目	感染症対策
7回目	医療の質と安全の確保
8回目	医事紛争·医療事故
9回目	総復習
10回目	定期試験・解答解説
準備学習 時間外学習	前回の授業後に、学んだ事・気づいたこと・疑問などを提出する。
評価方法	定期試験筆記100%
受講生への メッセージ	柔道整復師に必要な知識としての社会保障制度を理解する。

【使用教科書·教材·参考書】

社会保障制度と柔道整復師の職業倫理

学科: 柔道整復科

科目名(英)	外傷の保存療法	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	内村 陽一 O
(共)	(Conservative Therapy of External Injuies)	授業	能施	総時間	20	開講区分	後期·後半
コース	共 通	1 形態	講義	(単位)	1	曜日・時限	

【授業の学習内容】

外傷に対する保存療法と観血療法の鑑別、それぞれの治療法の特徴について学ぶ。 1年生で学んだ範囲である骨折の総論の復習を行うことで国家試験に対する対応力を身につける。

※実務経験 田口整骨院にて2年9か月。その後、うちむら接骨院を開業4年経過。

【到達目標】

外傷に対する保存療法、観血療法の鑑別と特徴を理解し説明できる。治癒経過を理解し治療目標の設定が適切にできる。

0) 11. 111(1111)	授業計画·内容
1回目	外傷保存の概要を理解する。
2回目	外傷に対する保存療法と観血療法の鑑別について説明できる。
3回目	観血療法の特徴を理解し説明できる。
4回目	保存療法の特徴と関連する後療法について理解する。
5回目 保存療法の特徴と関連する後療法について説明できる。	
6回目	骨折・脱臼・軟部組織損傷の固定について理解する。
7回目	骨折・脱臼・軟部組織損傷の固定について理解し説明できる。
8回目	本講義の範囲が説明できる。
9回目	問題演習
10回目	試験・試験解説
準備学習 時間外学習	1年生で学んだ柔道整復学(特に総論)の復習、授業後の復習を行い、知識の定着を図ってほしい。
評価方法	所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験(マークシート)において評価を行う。 評価は100点満点法を用い、60点以上を合格とする。
受講生への メッセージ	外傷の治療法は保存療法と観血療法に大別する。柔道整復師が行えるのは保存療法のみであるため、保存と観血の鑑別を行えることは必須である。 今後、資格取得後し勤務した際、自身の身を守るうえで大切になってくるためしっかり学んでいただきたい。

【使用教科書·教材·参考書】

柔道整復学理論編第7版、配布プリント

学科: 柔道整復科

科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅲ (Clinical judo Therapy Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員 水元 宏哉 実務経験 O
(×/	(Officer Judo Therapy m.)	授業	it 20	総時間	60	開講区分 前期·後期前半
コース	共 通	形態	講義	(単位)	3	曜日·時限

【授業の学習内容】

これまで履修した柔道整復理論の総復習

※実務経験: 整形外科で2年 整骨院で7年勤務

【到達目標】

国家試験問題の傾向と対策を知る 臨床的思考を構築する

教科書(理論編・実技編)、ブリント

	授業計画・内容	
1回目	総論問題演習および解答解説について理解する①	
2回目	総論問題演習および解答解説について理解する②	
3回目	総論実力テスト	
4回目	総論実力テストの解説について理解する	
5回目	総論問題演習および解答解説について理解する③	
6回目	総論問題演習および解答解説について理解する④	
7回目	下肢実力テスト	
8回目	下肢実力テストの解説について理解する	
9回目	骨盤骨骨折~大腿部の脱臼・骨折の問題演習および解答解説について理解する①	
10回目	骨盤骨骨折~大腿部の脱臼・骨折の問題演習および解答解説について理解する②	
11回目	大腿部~下肢の脱臼・骨折の問題演習および解説について理解する①	
12回目	大腿部~下肢の脱臼・骨折の問題演習および解説について理解する②	
13回目	大腿部~下肢の脱臼・骨折の問題演習および解説について理解する③	
14回目	下腿~足部の脱臼・骨折の問題演習および解説について理解する①	
15回目	下腿~足部の脱臼・骨折の問題演習および解説について理解する②	
16回目	下腿~足部の脱臼・骨折の問題演習および解説について理解する	
17回目	骨盤骨骨折~大腿部の軟部組織損傷の問題演習および解説について理解する	
18回目	前期総復習について理解する①	
19回目	前期総復習について理解する②	
20回目	前期定期試験・解答解説について理解する	
21回目	大腿部~下腿の軟部組織損傷の問題演習および解説について理解する①	
22回目	大腿部~下腿の軟部組織損傷の問題演習および解説について理解する②	
23回目	下腿~足部の軟部組織損傷の問題演習および解説について理解する①	
24回目	下腿~足部の軟部組織損傷の問題演習および解説について理解する②	
25回目	下腿~足部の軟部組織損傷の問題演習および解説について理解する③	
26回目	体幹部の損傷の問題演習および解説について理解する①	
27回目	体幹部の損傷の問題演習および解説について理解する②	
28回目	本講義範囲について説明できる①	
29回目	本講義範囲について説明できる②	
	後期前半定期試験·解答解説	
準備学習 特間外学習	柔道整復理論、解剖学、生理学、運動学の自宅学習が必要	
評価方法	定期試験100%	
を講生への メッセージ	1.2年次に受講した範囲ですが知識を定着する為にも復習は大切な時間となります。休まず受講して下さい。	

学科: 柔道整復科

科目名(英)	物理療法機器等の取り扱い (Handling of Physical Therapy Instruments)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	水島 徹也
(34)	(Handling of Physical Therapy Instruments)	授業	9.85. 全位	総時間	20	開講区分	後期
コース	共 通	形態	講義	(単位)	1	曜日·時限	

【授業の学習内容】

病院や整骨院で取り扱う物理療法について理解し基本的な使用方法について学ぶ。 適用と禁忌について正しく理解する。

※実務経験 接骨院勤務5年

【到達目標】

現場で必ず使用することになる物理療法について学び、適用(効果)と禁忌(逆効果)について正しく理解することを目標とする。物理療法を使用するにあたって必要な説明が出来るようになる事も目標とし、患者に対する気配りが出来るようになる事も目標とする。

	授業計画·内容
10目	オリエンテーション、ガイダンス
2回目	物理療法とは
3回目	物理療法の分類と安全対策
4回目	電気療法
5回目	温熱療法①
6回目	温熱療法②
7回目	牽引療法 その他
8回目	適用と禁忌
9回目	総復習
10回目	定期試験•解答解説
準備学習 時間外学習	事前に教科書をゆっくり読んで学習しておく。
評価方法	定期試験(100%)
受講生への メッセージ	整骨院であれ整形外科であれ、必ず物理療法を患者に施術する機会があります。作用があれば必ず反作 用もありますので、各種物理療法の適用と禁忌をきちんと学んで、効果的な使用が出来るようになってください。

【使用教科書·教材·参考書】

柔道整復学·理論編【全国柔道整復師学校協会監修】改定第7版

学科: 柔道整復科

科目名 (英)	柔道整復実技Ⅲ (Adovanceed Judo Thherapeutic Lab Ⅲ)	必修 選択		必修	年次	3	担当教員 城村 拓也 実務経験 ○
(56)	(Adovanceed Oudo Trinerapeutic Lab III)	授業	Т	中什	総時間	60	開講区分! 前期·後期前半
コース	共 通	形態		実技	(単位)	2	曜日·時限

【授業の学習内容】

問診・視診・触診の能力 鑑別診断および整法復・固定法・検査法

※実務経験:10年(整形外科2年・小規模多機能居宅介護2年・鍼灸接骨院5年・自費リハビリ施設1年)

【到達目標】

柔道整復理論実技編・認定実技審査・その他

損傷に対する正確かつ迅速な診断および処置能力を修得し実践できる 臨床現場における実践力・対応力を修得し実践できる 多種多様な損傷に対する診断や治療法を修得し実践できる

2012	授業計画·内容
108	授業の勧め方等・基本包帯法の復習を説明できるようになる
2回目	肩鎖関節上方脱臼を説明し整復できるようになる
3回目	肩鎖関節上方脱臼を説明し固定できるようになる
4回目	肩関節前方鳥口下脱臼を説明し整復できるようになる
5回目	肩関節前方鳥ロ下脱臼を説明し固定できるようになる
6回目	肘関節後方脱臼を説明し整復できるようになる
7回目	肘関節後方脱臼を説明し固定できるようになる
8回目	手第2指PIP関節背側脱臼を説明し固定できるようになる
9回目	第5中手骨頚部骨折を説明し固定できるようになる
10回目	肋骨骨折を説明し固定できるようになる
11回目	膝関節損傷(MCL)を説明し検査できるようになる
12回目	膝関節損傷(MCL)を説明し固定できるようになる
13回目	足関節外側靭帯損傷を説明し検査できるようになる
14回目	足関節外側靭帯損傷を説明し固定できるようになる(局所副子固定)
15回目	足関節外側靭帯損傷を説明し固定できるようになる(バスケットウィーブテープ固定)
16回目	足関節外側靭帯損傷を説明し固定できるようになる(フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定)
17回目	本講義前期範囲の内容を理解し実践できる①
18回目	本講義前期範囲の内容を理解し実践できる②
19回目	本講義前期範囲の内容を理解し実践できる③
20回目	前期実技試験
21回目	肩鎖関節上方脱臼を説明し整復・固定できるようになる
22回目	肩関節前方鳥ロ下脱臼を説明し整復・固定できるようになる
	肘関節後方脱臼を説明し整復・固定できるようになる
24回目	手第2指PIP関節背側脱臼を説明し固定できるようになる
25回目	上第2日に関節月側が口を試りし回足できるというです。 膝関節損傷(MCL・LCL、ACL・PCL、MM・LM)、足関節外側靭帯損傷について実践できる
26回目	盤別診断、合併症、後遺症の判断について実践できる
27回目	塩別診断、合併症、後遺症の判断に りいて美茂できる 本講義後期範囲の内容を理解し実践できる①
	本講義後期範囲の内容を理解し実践できる②
28回目	本講義後期範囲の内容を理解し実践できる③
30回目	後期前半実技試験
準備学習 :間外学習	各損傷における発生機序、症状(所見、特徴)、鑑別等を理解し、イメージした上で整復、検査、固定等が出来るように準備するこ
評価方法	実技試験・筆記試験・出席状況・授業態度を加味して総合的に評価
	1・2年生時に配布された資料を見直しておくこと。授業は自分の弱点補強や改善点を学ぶ場として参加してください。時間を有効に使い、自主練習も積極的に行って認実技審査合格を目指しましょう。

学科: 柔道整復科

科目名(英)	生理学 I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	角 静香/自見 英治郎 〇
(56)	(Physiology I)	授業	18.00	総時間	80	開講区分	前期·後期
コース	共 通	形態	講義	(単位)	4	曜日·時限	火曜日1・2・3限

【授業の学習内容】

基礎である血液や免疫、内分泌を学ぶことによって、ホルモンの作用不全による疾患、血液疾患、免疫不全などの疾患につながる為、必要不可欠な 知識である。血液、内分泌、免疫について20回終了後、各々が説明できるようになる。

人間は栄養を摂取して生活をしているが、どのように食物は体内へ取り込まれ、どのようにして栄養のみ吸収しているのかを理解する。また、普段意識せずに自然に行っている呼吸についても、その構造、仕組みについて理解する。

角 静香……・歯科医師。九州大学歯学部附属病院、山田歯科にて臨床に携わる。 自見 英治郎・・・歯科医師。九州大学病院、歯科医院にて臨床に携わる。

【到達目標】

血液、免疫のしくみ、ホルモンについて理解でき、各機能についても説明ができるようになる。

循環・呼吸・泌尿について理解でき、各機能についても説明ができるようになる。

栄養の摂取・消化・吸収について理解し、説明できる。

生理学 全国柔道整復学校協会監修 プリント教材

呼吸のメカニズムについて理解し、説明できる。

591	授業計画・内容
108	血液① 血液の役割 血液組成 赤血球 白血球について説明できる
2回目	血液② 血小板 血液凝固 血液型について説明できる 練習問題
3回目	免疫① 免疫系の仕組み リンパ系の主な器官 免疫に関わる細胞 について説明できる
4回目	免疫② 免疫反応 抗原と抗体について説明できる 練習問題
5回目	内分泌① ホルモンの性質 調整機構 視床下部と下垂体について説明できる
6回目	内分泌② 視床下部ホルモン 下垂体ホルモン 松果体について説明できる
7回目	内分泌③ 甲状腺について説明できる
8回目	内分泌④ 甲状腺② 血漿カルシウム濃度調整につてい説明できる 練習問題
9回目	内分泌⑤ 副腎について説明できる 練習問題
10回目	内分泌⑥ 膵臓について説明できる 練習問題
11回目	内分泌⑦ 性腺について説明できる 練習問題
12回目	内分泌⑧ 成長とホルモン 血糖とホルモンについて説明できる
13回目	今まで習った内容に関して復習し各項目について説明できる
14回目	生理学実習 顕微鏡の使い方
15回目	生理学実習 末梢血
16回目	生理学実習 末梢血
17回目	生理学実習 内分泌器官(膵臓)
18回目	生理学実習 内分泌器官(甲状腺)
19回目	全範囲の復習、試験対策
20回目	学期末試験
21回目	消化器系1 口腔について説明できる
22回目	消化器系2 咽頭、食道について説明できる 前回の講義確認テスト1
23回目	消化器系3 胃について説明できる 前回の講義確認テスト2
24回目	消化器系4 小腸について説明できる 前回の講義確認テスト3
25回目	消化器系5 大腸、膵臓について説明できる 前回の講義確認テスト4
26回目	消化器系6 肝臓について説明できる 前回の講義確認テスト5
27回目	消化器系7 胆囊、腹膜について説明できる 前回の講義確認テスト6
28回目	消化器系8 栄養素について説明できる 前回の講義確認テスト7
29回目	消化器系9 まとめ 前回の講義確認テスト8
30回目	消化器系10 中間試験
31回目	呼吸器系1 鼻腔について説明できる
32回目	呼吸器系2 咽頭、喉頭、気管と気管支について説明できる 前回の講義確認テスト9
33回目	呼吸器系3 肺と胸膜について説明できる 前回の講義確認テスト10
34回目	呼吸器系4 呼吸のプロセスについて説明できる 前回の講義確認テスト11
35回目	呼吸器系5 換気について説明できる 前回の講義確認テスト12
36回目	呼吸器系6 ガス交換について説明できる 前回の講義確認テスト13
37回目	呼吸器系7 血液によるガス運搬について説明できる 前回の講義確認テスト14
38回目	呼吸器系8 呼吸周期の調節について説明できる 前回の講義確認テスト15
39回目	呼吸器系9 まとめ 前回の講義確認テスト16
40回目	呼吸器系10 最終試験
準備学習 計間外学習	内容的には難しい範囲でもあるので毎回の授業の理解を次の授業までに確実にしておくことが必要である。
評価方法	小テスト、実習における提出物、定期試験
溝生へのメッ セージ	血液・免疫・内分泌・呼吸は人間が生きていく中で重要な機能を司るものである。疾患との関連性が大きく他の科目との関連性も きいため、自宅学習を行い理解を深めることが好ましい。

学科: 柔道整復科

MER	471 ÷11 214 ÷	必修	必修	年次	4	担当教員 辻 康夫/角 静香
科目名 (英)	解剖学 I (Anatomy I)	選択	92.11%	+0	- 34	実務経験 〇
150	(Anatomy 1)	授業	講義	総時間	80	開講区分 通年
コース	共 通	形態	6PF 95%	(単位)	4	曜日·時限 火曜1·2限、金3限

【授業の学習内容】

骨折、脱臼を学ぶ上で必要な運動器の名称、構造、役割について学び、柔道整復師としての基礎固めを行う。

- 辻 康夫…九州大学病院7年、てりは矯正歯科9年歯科臨床に携わる。 角 静香…歯科医師。九州大学歯学部附属病院・山田歯科にて臨床に携わる。

【到達目標】

骨、筋の名称、役割、構造、特徴について説明ができるようになる

	授業計画・内容	
108	解剖学概論、骨の役割、骨の分類について理解できる。	
2回目	骨の組成、長骨の構造について理解できる。	
3回目	骨の発生、骨の連結について理解できる。	
4回目	骨の生理学、カルシウム代謝について理解できる。	
5回目	上肢帯の骨、肩関節、肘関節について理解できる。	
6回目	手の骨、関節について理解できる。	
708	下肢の骨、骨盤の構造について理解できる。	
808	股関節、膝関節について理解できる。	
908	下肢の骨、足の骨、関節のまとめ	
10回目	脊柱について理解できる。	
11回目	胸郭について理解できる。	
12回目	筋学概論、筋の生理学について理解できる。	
13回目	筋収縮について理解できる。	
14回目	横隔膜と呼吸運動について理解できる。	
15回目	消化器序論1:消化管、消化腺の構造1について理解できる。	
16回目	消化器序論2:消化管、消化腺の構造2について理解できる。	
17回目	消化器序論3:栄養素についてについて理解できる。	
18回目	消化器序論4:消化、吸収1について理解できる。	
19回目	消化器序論5:消化、吸収2について理解できる。	
20回目	学期末試験	
21回目	頭部の骨について理解できる。	
22回目	頭部の骨2、頭部の筋1について理解できる。	
23回目	頭部の筋2について理解できる。	
24回目	体液概論について理解できる。	
25回目	浸透圧と拡散について理解できる。	
26回目	浸透圧調節について理解できる。	
27回目	ナトリウムイオンと血圧について理解できる。	
28回目	血圧調節について理解できる。	
29回目	まとめ、復習	
30回目	試験・解説	
31回目	神経系:脳について理解できる	
32回目	神経系: 脊髄について理解できる	
33回目	神経系:末梢神経・脳神経について理解できる①	
34回目	神経系:末梢神経・脳神経について理解できる②	
35回目	神経系:末梢神経・脊髄神経について理解できる	
36回目	神経系:末梢神経・自律神経について理解できる	
37回目	神経系総復習①	
38回目	神経系総復習②	
39回目	神経系総復習③	
40回目	試験·解説	
40EE	MALIA VILIA	
準備学習 時間外学習	覚えられるところは授業中に覚える。必要に応じて自宅学習を行う。	
評価方法	筆記試験(100%)	
受講生への メッセージ	骨、筋の学習においては記憶、理解する項目が多い為、自宅学習をすることが望ましい。	

解剖学 全国柔道整復学校協会 監修

学科: 柔道整復科

科目名	470 女儿产生 可	必修	必修	年次	- 4	担当教員	宇都宮 美咲/辻 康夫
(英)	解剖学Ⅱ (Anatomy Ⅱ)	選択	SEA NO	40		実務経験	0
(20)	(Anatomy II)	授業形態	FAX DO.	総時間	80	開講区分	通年
コース	共 通	1文朱形思	講義	(単位)	4	曜日·時限	月曜3限金曜1・2限

【授業の学習内容】

〈組織〉人体は細胞という構成単位が多数集まってできた多細胞生物であり、その最小単位である細胞は分野にも通じる基礎である。講義を通じて、 細胞、そしてその構造・働きを同じくする組織について学ぶ。

〈循環〉ヒトが生きていくためには身体を構成する器官・組織・細胞に酸素と栄養素を補給する必要がある。そこで生じた炭酸ガスや老廃物を取り除 かなければならない。このような物質輸送にあたる血液とリンパを全身のすみずみにまで行き渡らせるのが循環系であり、その基礎を学ぶ。

※実務経験

宇都宮 美咲…歯科医師。九州大学病院、福岡赤十字病院、一般歯科医院勤務後、小児歯科開業。

辻 康夫……九州大学病院7年、てりは矯正歯科9年歯科臨床に携わる。

【到達目標】

細胞、組織、器官、器官系について系統別に、その構造・機能を説明できる。また、心脈管系についてその構造と機能について説明できる。また、その知識を日常生活や臨床実習において活用できるようになる。

	授業計画·内容
10目	(組織)解剖生理学の歴史についてその概要を説明できる
2回目	細胞・組織・器官・器官系について、その概要を説明できる
3回目	細胞の構造とその機能について説明できる
4回目	DNAの構造や複製、蛋白質合成について説明できるについて説明できる
5回目	細胞膜の透過性について説明できる
6回目	物質代謝について説明できる
7回目	細胞の電気現象について説明できる
8回目	上皮組織・支持組織について説明できる
9回目	筋組織について説明できる
10回目	神経組織について説明できる
11回目	染色体と減数分裂について説明できる
12回目	受精と着床について説明できる
13回目	〈循環〉脈管系とその概要を説明できる
14回目	血管の形態と構造、機能的分類について説明できる
15回目	血液について説明できる
16回目	心臓の位置・形態・構造について説明できる
17回目	心筋の自動性についてそのメカニズムを説明できる
18回目	心筋細胞単位での興奮状態と静止状態について説明できる
19回目	心電図について説明できる
20回目	学期末試験
21回目	心周期・血圧について説明できる
22回目	神経性調節・体液性調節について説明できる
23回目	心脈管系について説明できる
24回目	門脈系、胎児の循環系について説明できる
25回目	リンパ系・局所循環系について説明できる
26回目	消化器①について説明できる
27回目	消化器②について説明できる
28回目	呼吸器①について説明できる
29回目	呼吸器②ついて説明できる
30回目	内分泌系について説明できる
31回目	泌尿器①腎臓の構造について説明できる。
32回目	泌尿器②ネフロンについて説明できる。
33回目	泌尿器③尿産生 再吸収と分泌、体液調節について説明できる。
34回目	泌尿器④膀胱、尿道、排尿調節について説明できる。
35回目	生殖器①男性生殖器の構造について説明できる。
36回目	生殖器②精路について説明できる。
37回目	生殖器③女性生殖器の構造について説明できる。
38回目	生殖器④女性生殖器と性周期について説明できる。
39回目	問題演習
40回目	期末試験
準備学習 時間外学習	講義の中で可能な限り理解し、必要であれば、自宅学習を行う。
評価方法	筆記試験(100%)
受講生への メッセージ	少ない時間でもよいので、毎回行う確認テストを中心に復習し、その都度知識を定着させていくことが望ましい。

教科書、講義資料(配布)

学科: 柔道整復科

科目名(英)	解剖·運動学	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	水島 徹也
(英)	(Anatomy and Kinesiology)	授業	- M - M-	総時間	60	開講区分	水
コース	共 通	形態	講義	(単位)	3	曜日·時限	1限 2限 4限

【授業の学習内容】

解剖学の骨、筋について分かりやすく説明し理解してもらい、今後の臨床で役立ててもらう。

※実務経験 接骨院5年勤務

「解剖学」改訂第2版 全国柔道整復学校協会

【到達目標】

柔道整復師の特性として「解剖学」の中で骨・関節・筋などの運動系について正常な構造を学ぶ。

	授業計画·内容
1回目	骨の役割・形状による分類・構造・発生と成長・形状についての用語を理解し、説明することが出来る。
2回目	骨の連結を理解し、説明することが出来る。
3回目	骨の連結・上肢骨の構成を理解し、説明することが出来る。
4回目	上肢骨の構成・肩甲骨を理解し、説明することが出来る。
5回目	鎖骨 肩鎖関節・胸鎖関節を理解し、説明することが出来る。
6回目	上腕骨 肩関節を理解し、説明することが出来る。
7回目	橈骨・尺骨 肘関節を理解し、説明することが出来る。
8回目	手根骨・中手骨・指骨 手の関節を理解し、説明することが出来る。
9回目	上肢骨の復習を理解し、説明することが出来る。
10回目	下肢骨の構成 寛骨を理解し、説明することが出来る。
1108	大腿骨 股関節を理解し、説明することが出来る。
12回目	膝蓋骨・下腿骨 膝関節を理解し、説明することが出来る。
13回目	足根骨・中足骨・趾骨を理解し、説明することが出来る。
14回目	縦足弓・横足弓 足関節を理解し、説明することが出来る。
15回目	骨格筋の形態と起始・停止 筋の作用 筋の補助装置を理解し、説明することが出来る。
16回目	頚部の筋・胸部の筋を理解し、説明することが出来る。
17回目	呼吸運動・腹部の筋を理解し、説明することが出来る。
18回目	背部の筋を理解し、説明することが出来る。
19回目	総まとめ
20回目	前期試験 試験解説
21回目	上肢帯の筋を理解し、説明することが出来る。
22回目	上腕の筋・前腕の筋を理解し、説明することが出来る。
23回目	前腕の筋を理解し、説明することが出来る。
24回目	手の筋 母指球筋・中手筋・小指球筋を理解し、説明することが出来る。
25回目	下肢帯の筋を理解し、説明することが出来る。
26回目	大腿の筋を理解し、説明することが出来る。
27回目	下腿の筋を理解し、説明することが出来る。
28回目	下腿の筋・足の筋を理解し、説明することが出来る。
29回目	総まとめ
30回目	後期試験 試験解説
準備学習 寺間外学習	授業始めには、前回の授業の要点確認から始める。また、小テストも行うので日々復習をすること。
評価方法	定期試験100%
	医療人となるための共通言語として必ず必要となる基礎知識となるので、継続的な復習が必要となるのでじっくりと取り組んでほ い。

学科: 柔道整復科

科目名(英)	運動学 (Kinesiolomy)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員: 熱田 生/辻 康夫 実務経験: O
(**/	(Kinesiology)	授業	58 St.	総時間	60	開講区分 前期後半・後期
コース	共 通	形態	講義	(単位)	3	曜日・時限 月曜1.2.3限

【授業の学習内容】

基礎を元に、関節運動、それを動かす筋、神経について理解する。実際に自分の身体を使い運動を実践しながら運動について説明で きるようになることで理解を深めていく。

運動器の構造、機能で学んだ知識を生かし、可動域を考えながら運動、動作を探求する。

※実務経験

熱田 生…九州大学クラウンブリッジ補綴学に所属しつつ、九州大学病院義歯補綴科にて臨床に携わる。

辻 康夫…九州大学病院7年、てりは矯正歯科9年歯科臨床に携わる。

(到達目標)

骨、筋の知識をより実践的に理解できるようにする。

運動学 全国柔道整復学校協会 監修

	授業計画·内容
108	運動学概論として、骨、筋、神経の基礎について理解できる
2回目	運動面と運動軸ついて理解できる
3回目	運動のてこについて理解できる
4回目	肩甲骨の運動について理解できる
5回目	肩関節の運動について理解できる
6回目	肘関節の運動について理解できる
7回目	手関節の運動について理解できる
8回目	指関節の運動について理解できる
9回目	試験対策①
10回目	試験・解説
11回目	股関節の運動について理解できる
12回目	膝関節の運動について理解できる
13回目	足関節の運動について理解できる
14回目	歩行運動について理解できる
15回目	重心について理解できる
16回目	異常歩行について理解できる
17回目	頭頸部の運動について理解できる
18回目	体幹の運動について理解できる
19回目	試験対策②
20回目	学期末試験
21回目	運動学習総復習: てこについて理解できる。
22回目	運動学総復習:骨の構造、骨の生理学について理解できる。
23回目	運動学復習:筋収縮、エネルギー供給、筋収縮の種類について理解できる。
24回目	運動学総復習:上肢帯、上肢の運動について理解できる。
25回目	運動学総復習:手の運動について理解できる。
26回目	運動学総復習:下肢の運動について理解できる。
27回目	運動学総復習:脊柱の運動について理解できる。
28回目	運動学習総復習:歩行について理解できる。
29回目	全体のまとめ
30回目	学期末試験
準備学習 時間外学習	各運動について理解を深める上で、解剖学(骨・筋・神経)の復習は必須となります。歩行についても、自分自身で歩行を実践し復習してください。 覚えられるところは授業中に覚える。必要に応じて自宅学習を行う。
評価方法	筆記試験(100%)
受講生への メッセージ	解剖学で学習した関節を実際に動かすことで運動学となります。各関節の運動や、総合的な運動として歩行などを学習していきます。自分の身体を使い、実際に運動をしながら学習してください。また欠席のないように注意して下さい。 骨、筋の知識を復習しながら、必要に応じて自宅学習をすることが望ましい。

学科: 柔道整復科

NDA	25. 14: 30. 46: 414. s	必修	必修	年次	14	担当教員	舘川 大輔
科目名 (英)	柔道整復学 I (Anatomy I)	選択	3E31785	+0	37	実務経験	0
(24)	(Allaconty I)	授業	講義	総時間	80	開講区分	通年
コース	共 通	形態	5四 900	(単位)	4	曜日·時限	月/1, 2, 4限

【授業の学習内容】

- ・骨折の総論、上肢の骨折について学ぶ ・柔道整復師、柔道整復術の歴史について学ぶ

※実務経験 接骨院・整形外科にて8年勤務

【到達目標】

- ・骨折の総論について説明する事ができる ・上肢の骨折・脱臼について説明する事ができる ・骨折の各論 上肢(鎖骨から前腕近位まで)について説明できる

	授業計画·内容
108	「オリエンテーション(柔道整復師とは、柔道整復術とは)
20目	骨折総論 各組織の損傷(骨の機能と形態)
3回目	骨折総論 各組織の損傷(骨損傷の概説、骨折の分類)
4回目	骨折総論 各組織の損傷(骨折の分類)
5回目	骨折総論 各組織の損傷(骨折の分類)
6回目	骨折総論 各組織の損傷(骨折の分類)
7回目	骨折総論 各組織の損傷(骨折の症状)
8回目	骨折総論 各組織の損傷(骨折の症状)
9回目	骨折総論 各組織の損傷(骨折の合併症) 骨折総論 各組織の損傷(骨折の合併症)
10回目	
11回目	骨折総論 各組織の損傷(骨折の合併症)
12回目	骨折総論 各組織の損傷(小児骨折)
13回目	骨折総論 各組織の損傷(高齢者骨折)
14回目	骨折総論 各組織の損傷(骨折の癒合日数、骨折の治癒経過)
15回目	総論 診察、治療法(整復法)
16回目	総論 治療法(整復法)、柔道整復術および柔道整復師の沿革
17回目	骨折各論 肩甲带
18回目	骨折各論 肩甲带
19回目	総復習
20回目	定期試験
21回目	骨折各論 上肢骨折① 肩甲帯
22回目	骨折各論 上肢骨折② 上腕近位端部
23回目	骨折各論 上肢骨折③ 上腕近位端部
24回目	骨折各論 上肢骨折④ 上腕近位端部
25回目	骨折各論 上肢骨折⑤ 上腕近位端部
26回目	骨折各輪 上肢骨折⑥ 上腕遠位端部
27回目	骨折各論 上肢骨折⑦ 上腕遠位端部
28回目	骨折各論 上肢骨折⑧ 上腕遠位端部
29回目	骨折各論 上肢骨折⑨ 前腕近位端部
30回目	骨折各論 上肢骨折⑪ 前腕近位端部
31回目	骨折各論 上肢脱臼① 鎖骨部
32回目	骨折各論 上肢脱臼① 鎖骨部
33回目	骨折各論 上肢脱臼① 肩関節部
34回目	骨折各論 上肢脱臼① 肩関節部
35回目	骨折各論 上肢脱臼⑪ 肩関節部
36回目	骨折各論 上肢脱臼① 肘関節部
37回目	骨折各論 上肢脱臼① 肘関節部
38回目	骨折各論 上肢脱臼① 肘関節部
39回目	総復習、まとめ
40回目	試験
準備学習 時間外学習	わからない用語を調べておくなどの予習、講義後に確認問題を解きなおすなど反復が必要。
評価方法	定期試験
受講生への メッセージ	柔道整復師の基本となる大切な範囲です。予習、復習を怠らず取り組んでください。
更用教科書・	政材・参考書】

学科: 柔道整復科

科目名	柔道整復学Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 言永 あずさ 実務経験 ○
(英)	(Judo Therapy II)	授業	F80.00	総時間	80	開講区分 通年
コース	共 通	形態	講義	(単位)	4	曜日·時限 水/1·2 金/4

【授業の学習内容】

骨や筋、関節の構造を学び、筋の起始・停止・作用を理解し人体の構造と機能についての基礎を固め説明が出来るようになる。

正常な構造と機能を学ぶことで異常な状態を理解することが出来るようになる。

「関節損傷」の基礎を中心に学び、外傷(骨折・脱臼・軟損)についての知識を理解する。柔道整復師として活躍する為に、まずその外傷が柔道整復師の業務範囲内であるか否かを判断し、その後、適切な処置ができるだけの知識と技術を備えておく必要がある。当該科目では脱臼、軟部組織損傷の症状や合併症、それに対する処置の方法などを学習する。

※実務経験 整骨院で6年勤務

柔道整復理論 改訂第7版

【到達目標】

脱臼、軟部組織損傷の理解を深め、自分の言葉で説明できるようになる 履修範囲の国家試験過去問題、または同等レベルの問題を解くことができる

	授業計画・内容
108	関節の構造と機能①
2回目	関節の構造と機能②
3回目	関節損傷の概説 関節損傷の分類 鑑別診断を要する類症
4回目	脱臼 (1. 定義と概説 ・ 2. 発生頻度)
5回目	脱臼 (3. 脱臼の分類 a~d)
6回目	脱臼 (3. 脱臼の分類 e~l)
7回目	脱臼 (4. 脱臼の症状 ・ 5. 脱臼の合併症)
8回目	脱臼 (6. 脱臼の整復障害 ・ 7. 脱臼の経過と予後) ・整復法(P92~P95)→脱臼・軟損
9回目	関節構成組織損傷 (靭帯・関節包の損傷・・関節周囲の筋・腱損傷)
10回目	関節構成組織損傷 (関節軟骨損傷 ・ その他の関節構成組織の損傷)
1108	復習(1回目~10回目) グループワークによる問題演習
12回目	筋の形態と機能 筋損傷の概説 筋損傷の分類
13回目	筋損傷の症状 筋損傷の治癒機序 筋損傷の予後
14回目	腱の構造と機能 腱損傷の概説
15回目	腱損傷の分類 腱損傷の症状 腱損傷の治癒機序
16回目	神経の構造と機能 神経損傷の概要
17回目	神経損傷の分類 神経損傷の症状 神経損傷の治癒機序
18回目	問題演習
19回目	総復習
20回目	試験·解説
21回目	固定法(P91~P100)
22回目	後療法 手技療法 運動療法 物理療法
23回目	指導管理A·B·C(P135~P140)
24回目	顎関節脱臼(P163~P166)
25回目	A. 外傷性顎関節損傷B. 頭部・顔面部打撲
26回目	C. 顎関節症 グループワーク
27回目	A.胸肋関節損傷B.肋間筋損傷C.胸部・背部打撲
28回目	A. 頭椎脱臼、胸椎脱臼
29回目	A. 顕部捻挫 1. 寝違え2. むちうち損傷
30回目	3. 頭椎部の神経損傷B. 頭部の疾患 1. 斜頸2. 頸椎ヘルニア3. 後縦靭帯骨化症
31回目	4. 胸郭出口症候群 C. 胸背部軟部組織損傷 (P208~P209) 1. 脊椎側彎症
32回目	D. 腰部の軟部組織損傷(P216~P217) E. 腰部の疾患(P219) 1. 腰椎椎間板ヘルニア
33回目	A. 鎖骨の脱臼1. 胸鎖関節脱臼 2. 肩鎖関節脱臼
34回目	B.肩関節脱臼 1.前方脱臼 発生機序・症状・整復法 ・後療法・鑑別診断・合併症
35回目	2. 後方脱臼 3. 下方脱臼 4. 上方脱臼 5. 反復性肩関節脱臼
36回目	时関節脱臼(P279)
37回目	肘関節脱臼(P281)
38回目	肘内障(P283)
39回目	総復習 2450 4704
40回目	試験・解説
準備学習 時間外学習	授業資料や教科書を用いて予習、復習を行うことが望ましい
評価方法	試験
受講生への メッセージ	柔道整復師となる為に必要な基礎の部分です。 わからない所は都度確認して次回に持ち越さないようにしてください。

学科: 柔道整復科

科目名(英)	柔道整復実技IV (Advanced Judo TherapeuticLabIV)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員 <u>齊藤</u> 智仁 実務経験 ○
(36)	(Advanced oddo i nerapeddoLabiv)	授業	sau de	総時間	90	開講区分 通年
コース	共 通	形態	講義	(単位)	3	曜日·時限 水曜1, 2, 4限

【授業の学習内容】

各疾患の理論を説明し、理解が得られたところで実技指導を行う。その後、実技のグループ・ペアに分かれて臨床症状及び整復前の確認、整復法、 整復後の確認、固定法を学ぶ。

※実務経験 整骨院で7年勤務

【到達目標】

柔道整復学·実技編改定第2版

1. 臨床に応用できる技術を修得する。 2. 実際の患者と想定しながら接し、気を配り真摯な態度で接することができる。

	授業計画・内容
1回目	[鎮骨定型的骨折の整復
2回目	鎮骨定型的骨折の整復
3回目	鎖骨定型的骨折セイヤーテープ固定
4回目	鎮骨定型的骨折セイヤーテープ固定 上腕骨骨幹部骨折ミッテルドルフ三角副子固定
5回目	上腕骨骨幹部骨折ミッテルドルフ三角副子固定
6回目	上腕骨骨幹部骨折ミッテルドルフ三角副子固定
7回目	コーレス骨折の整復
8回目	コーレス骨折の整復
9回目	復習
10回目	複習 試験
11回目	コーレス骨折クラーメル副子と局所副子・三角巾固定
12回目	コーレス骨折クラーメル副子と局所副子・三角巾固定
1300	財内隨
13回目	TH DG
15008	附内障 腱板損傷
15回目	腱板損傷
17回目	上腕二頭筋長頭腱損傷
18回目	上腕二頭筋長頭腱損傷
19回目	復習
20000	は東
20回目	ハムストリングス損傷
20000	ハムストリングス損傷
22回目	ハムヘアソンノ人頂陽
23回目	大腿四頭筋(中間広筋)打撲 大腿四頭筋(中間広筋)打撲
24回目	人 题 四 與 肋 (中 国 山 肋)
25回目	下腿骨幹部骨折クラーメル副子固定
26回目	下腿骨幹部骨折クラーメル副子固定アキレス腱断裂クラーメル副子固定
27回目	アキレス艇耐袋クラーメル副子回定
28回目	膝関節半月板(内側半月板)損傷
29回目	復習
30回目	試験 膝関節半月板(内側半月板)損傷 膝関節十字靱帯(前十字靱帯)損傷
31回目	膝関節半月板(内側半月板)損傷
32回目	膝関節十字靱帯(前十字靱帯)損傷
33回目	下腿三頭筋(腓腹筋)損傷 下腿三頭筋(腓腹筋)損傷
33回目 34回目 35回目	下腿三頭筋(腓腹筋)損傷
35回目	前期の復習
36回目	前期の復習
37回目	復習
38回目 39回目	前期の復習
39回目	復習
40回目	試験
40回目 41回目	特別講義
42回目	特別講義
43回目	特別講義
4408	特別講義
45回目	特別講義
備学習	1年生で学習した骨・筋を理解しておく。
間外学習 価方法	実技試験・平常点にて総合的に評価
講生への	毎回出席するように。

学科: 柔道整復科

科目名(英)	基礎 柔道整復実技	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 米女 博司 実務経験 O
(英)	(Basic Judo Therapeutic Lab)	授業	\$	総時間	90	開講区分 通年
コース	共 通	形態	実技	(単位)	3	曜日·時限 火曜日1.2.3限

【授業の学習内容】

柔道整復師に必要な体表解剖、触診を学ぶ。 柔道整復師に必要な包帯固定学を学ぶ。

※実務経験

柔道整復師。日本柔道整復専門学校附属接骨院、新ゆり整形外科、よねめ接骨院にて臨床に携わる

【到達目標】

身体のランドマークを理解し目的の部分を触診できるようになる。 基本包帯法の基礎(種類、巻き方)を理解し、実践できる。

運動療法のための機能解剖学的触診技術(改訂第2版)上肢・下肢

包带固定学(改訂第2版) 巻軸包帯(3.4.5.6裂)包帯巻き棒

	授業計画・内容
108	触診の目的 触診を行うことを学ぶにあたって
2回目	触診の基本(立位肢位、運動面・軸・方向)、肩甲骨の位置と名称を触診して確認できる。
3回目	肩甲骨・鎖骨(肩鎖関節、胸鎖関節)の位置と名称を触診して確認できる。
4回目	肩関節の位置と名称を触診して確認できる。(棘上筋腱、肩峰下滑液包、小結節、大結節、結節間溝、外側腋窩隙など) 1
5回目	肩関節の位置と名称を触診して確認できる。(棘上筋腱、肩峰下滑液包、小結節、大結節、結節間溝、外側腋窩隙など)2
6回目	肘関節の位置と名称を触診して確認できる。(外側上顆、内側上顆、上腕骨小頭、橈骨頭、上腕骨滑車、肘頭、肘のアングルなど
7回目	手関節の位置と名称を触診して確認できる。(外側上顆、内側上顆、上腕骨小頭、橈骨頭、上腕骨滑車、肘頭、肘のアングルなど
808	財関節の位置と名称を触診して確認できる。(頭骨、尺骨茎状突起、リスター結節、スナッフボックス、豆状骨、有鉤骨、ギオン管、舟状骨
9回目	計関節の位置と名称を触診して確認できる。(頭骨、尺骨茎状突起、リスター結節、スナッフボックス、豆状骨、有鉤骨、ギオン管、舟状骨
10回目	触診実技中間試験
11回目	骨盤の位置と名称を触診して確認できる(上前・下前・上後腸骨棘、腸骨綾、仙腸関節、坐骨結節、恥骨結合など)1
12回目	骨盤の位置と名称を触診して確認できる(上前・下前・上後腸骨棘、腸骨綾、仙腸関節、坐骨結節、恥骨結合など)2
13回目	股関節の位置と名称を触診して確認できる(大転子、大腿骨頭、ローゼルネラトン線、弾発股、)1
14回目	股関節の位置と名称を触診して確認できる(大転子、大腿骨頭、ローゼルネラトン線、弾発股、)2
15回目	膝関節のの位置と名称を触診して確認できる(膝蓋骨、大腿骨内側・外側上顆、脛骨内側・外側上顆、腓骨頭、脛骨粗面)1
16回目	膝関節のの位置と名称を触診して確認できる(gardy結節、腸脛靭帯、膝蓋靭帯、内側・外側側副靭帯、鵞足、FTA、Q-Angle)2
17回目	膝関節のの位置と名称を触診して確認できる(gardy結節、腸脛靭帯、膝蓋靭帯、内側・外側側副靭帯、鵞足、FTA、Q-Angle)3
18回目	足関節の位置と名称を触診して確認できる①(内果・外果、距骨、踵骨、舟状骨、第5中足骨基底部、距腿関節、足根中足、足根間関節
19回目	足関節の位置と名称を触診して確認できる②(内外果、距骨、踵骨、舟状骨、第5中足骨基底部、距腿関節、足根中足、足根間関節な
20回目	触診実技期末試験
21回目	イントロ 基本包帯法の理論について説明出来るようになる。(包帯の洗濯方)
22回目	包帯座学(固定、固定材料の種類、巻軸帯の巻き方と注意事項、巻軸帯の巻き戻し)
23回目	環行帯、螺旋帯、蛇行帯について説明しながら巻けるようになる。
24回目	折転帯、亀甲帯、麦穂帯について説明しながら巻けるようになる。
25回目	折転帯、亀甲帯、麦穂帯について説明しながら巻けるようになる。
26回目	基本包帯を使って種々な部位の被覆固定(指・手関節から肘関節)について説明しながら巻けるようになる。①
27回目	基本包帯を使って種々な部位の被覆固定(指・手関節から肘関節)について説明しながら巻けるようになる。②
28回目	基本包帯を使って種々な部位の被覆固定(上腕から肩関節 体幹)について説明しながら巻けるようになる。
29回目	基本包帯を使って種々な部位の被覆固定(足部 - ヒールロックを含む)について説明しながら巻けるようになる。①
30回目	包帯実技中間テスト
31回目	基本包帯を使って種々な部位の被覆固定(足部 - ヒールロックを含む)について説明しながら巻けるようになる。②
32回目	基本包帯を使って種々な部位の被覆固定(下腿から膝関節)について説明しながら巻けるようになる。①
33回目	基本包帯を使って種々な部位の被覆固定(下腿から膝関節)について説明しながら巻けるようになる。②
34回目	冠名包帯 ヴェルボー包帯法(肩関節強制内転位固定法)について説明しながら巻けるようになる。①
35回目	冠名包帯 ジュール包帯法(肩関節強制内転位固定法)について説明しながら巻けるようになる。①
36回目	冠名包帯 デゾー包帯法(鎖骨骨折の固定に用いる包帯法)について説明しながら巻けるようになる(鎖骨骨折の説明を含む)。
37回目	冠名包帯 デゾー包帯法(鎖骨骨折の固定に用いる包帯法)について説明しながら巻けるようになる(鎖骨骨折の説明を含む)。
38回目	基本包帯・冠名包帯を総合的に練習する。
39回目	基本包帯・冠名包帯を総合的に練習する。
40回目	包帯実技期末試験
41回目	特別講義
42回目	特別講義
43回目	特別講義
44回目	特別講義
45回目	特別講義
準備学習	授業最後に次週行う場所を伝え軽く目を通してもらう。
間外学習	教科書を開き調べる癖をつける。
評価方法	1. 中間実技試験 2. 期末実技試験
	【前期】教室、実技実習室にある骨模型、筋模型や各種関節模型などを興味を持って観察するようにしよう。
講生への	実技授業以外でも出来るだけ人体に触れる機会を作ろう
は神生への	【後期】技術の向上は正しい練習の繰り返し以外ありません。ある一定の速さをもって、模擬外傷の理論をベースに整復操作を行
ッセーン	い、その後は患部の再転位、再脱臼、患部の安静を目的に患部に均等な圧がかかるように、きれいな包帯が巻くことが出来るよ
	日ごろから友人や家族に協力してもらい、多くの回数包帯を巻く練習をするように心がけること。

学科: 柔道整復科

科目名(英)	柔道整復実技 V (Advanced Judo Therapeutic Lab V)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 吉永 あずさ 実務経験 O
(英)	(Advanced Judo Therapeutic Lab V)	授業	実習	総時間	30	開講区分 後期
コース	共 通	形態	天白	(単位)	1	曜日·時限

【授業の学習内容】

"見学型臨床実習後のフィードバック、症例報告会に向けてのまとめ方、情報の取捨選択方法などを学ぶ。 施術録の説明・検査所見記載の実施。主要関節のROM測定、筋力測定、徒手検査、反射検査、運動機能検査の実施 主要関節の包帯被覆(テーピング)の復習。現場に必要な技術の総復習を行う

実務経験 整骨院勤務6年

- 【到達目標】 '主訴及び現状歴の説明ができる。既往歴・家族歴・社会歴を説明ができる。施術録の説明・検査所見の説明ができる。
- 主要関節のROM測定、筋力測定、徒手検査ができる
- 主要関節の包帯被覆(テーピング)の説明・実施ができる
- 症例報告会に向けた資料作成、発表準備ができる

	授業計画·内容	
10目	外部臨床実習で学んだ症例について	
2回目	外部臨床実習で学んだ症例の共有(グループワーク)	
3回目	外部臨床実習で学んだ症例の共有(グループワーク)	
4回目	触診の復習	
5回目	触診の復習	
6回目	触診の復習	
7回目	触診の復習	
8回目	基本包带法	
9回目	基本包带法	
10回目	基本包带法	
11回目	基本包带法	
12回目	症例発表準備	
13回目	症例発表準備	
14回目	症例発表	
15回目	症例発表	
準備学習 時間外学習	基本的な解剖学の知識、基礎的な柔道整復理論の知識修得のために自宅での学習が必要	
評価方法	平常点による評価、レポート	
	外部臨床実習後の落とし込み、基本的な触診、包帯法をしっかり覚えてください。 講義の中だけではなくクラスメイトと自主的に練習してください。	

学科: 柔道整復科

科目名(英)	臨床実習 (Clinical Practice)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 城村 拓也 実務経験 O
(央)	(Glinical Practice)	授業	中壮	総時間	45	開講区分 通年
コース	共 通	形態	実技	(単位)	1	曜日・時限

【授業の学習内容】

見学型臨床実習に備えて、主訴及び現状歴・既往歴・家族歴・社会歴聴取のロールプレイ

施術録の説明・検査所見記載の実施。主要関節のROM測定、筋力測定、徒手検査、反射検査、運動機能検査の実施 主要関節の包帯被覆(テーピング)の実施

☆内部臨床実習14回(21時間)後に外部臨床実習を3日間(24時間)実施

解剖学·運動学·柔道整復理論·配布資料

※実務経験:10年(整形外科2年・小規模多機能居宅介護2年・鍼灸接骨院5年・自費リハビリ施設1年)

【到達目標】

主訴及び現状歴の説明ができる。既往歴・家族歴・社会歴を説明ができる。施術録の説明・検査所見の説明ができる。 主要関節のROM測定、筋力測定、徒手検査、反射検査、運動機能検査、超音波診断装置の理解と読解ができる。 主要関節の包帯被覆(テーピング)の説明・実施ができる。

	授業計画·内容
1回目	臨床実習(内部・外部)に関しての概要の説明ができる
2回目	臨床実習を通して柔道整復師としての業の説明ができる
3回目	救護活動における柔道整復師の役割について説明ができる
4回目	外部実習に臨む心得を習得する(身嗜み・挨拶・言葉遣い)
5回目	患者の誘導・施術室清潔保持の重要性・守秘義務について説明ができる
6回目	医療面接についてオープン・クローズドクエッション、基本的傾聴、共感的態度が理解できる
7回目	医療面接について位置感・距離感、メラビアンの法則を理解できる
8回目	施術録の記載(説明)・物理療法機器の使用(説明)ができる
9回目	業務上の危機管理(リスクマネジメント、ヒヤリハット、医療事故と医療過誤)について理解できる
10回目	触察とランドマーク・ROM、被覆包帯(テーピング)ができる
11回目	身体計測(四肢長、四肢周径)ができる
12回目	肩関節・肘・手の評価(触診・ROM)、被覆包帯(テーピング)ができる
13回目	骨盤帯・股関節の評価(触診・ROM)、被覆包帯(テーピング)ができる
14回目	膝関節・足関節の評価(触診・ROM)、被覆包帯(テーピング)ができる
準備学習 時間外学習	臨床実習は卒後に柔道整復師を業とするには重要な事を総括した学習となります。患者との向き合い方から施術技術まで多岐に渡るため基本的な解剖学、運動学、、柔道整復学を自宅学習でインプットして学内でアウトプットの練習、学外実習で経験したことを持ち帰り、自身の知識と意識の軌道修正を行ってください。
評価方法	臨床実習ガイドラインに則る
受講生への メッセージ	資格取得後、働く上で最も重要な事は『患者(クライエント)のニーズに応えること』になります。柔道整復師の業は多岐に渡る為、まずは基礎学習の習慣をつけて傾聴、アドバイスが出来るような、患者に寄り添う、ホスピタリティをもった柔道整復師を目指してください。

学科: 柔道整復科

科目名	生理学Ⅱ	必修	必修	年次	2	担当教員	自見 英治郎/辻 康夫
(英)	土理子Ⅱ (Physiology Ⅱ)	選択	SC/19	7%		実務経験	0
(34)	(Physiology II)	授業	講義	総時間	80	開講区分	前期·後期
コース	共 通	形態	5再 使笔	(単位)	4	曜日·時限	金曜1・2・3限

【授業の学習内容】

ヒトはどうやって動くのか、痛みや温度などの感覚とは何なのか、ヒトはなぜまっすぐと立っていられるのか。神経系について基礎的なことを学び理解することで、正しい神経系の機能や構造について説明できるようになる。そして、そういった患者さんに遭遇した際に、その症状の原因がどこにあるの か説明できるようになる。

※実務経験

自見 英治郎…歯科医師。九州大学病院、歯科医院にて臨床に携わる。

辻 康夫……九州大学病院7年、てりは矯正歯科9年歯科臨床に携わる

【到達目標】

①神経系の伝導路について理解し説明できる ②反射の起こるメカニズムについて理解し説明できる

③感覚について理解し説明できる

108	授業計画·内容
	神経系の基礎1 神経系の区分と特徴、神経系の存在する細胞について説明できる
	神経系の基礎2 神経の基本的機能と静止膜電位について説明できる 前回の講義確認テスト1
	神経系の基礎3 活動電位、闡刺激、全か無の法則について説明できる 前回の講義確認テスト2
	神経系の基礎4 興奮の伝導と伝達について説明できる 前回の講義確認テスト3
5回目	中枢神経系の区分 脳室系、髄膜・脳脊髄液について説明できる 前回の講義確認テスト4
	脳1 大脳、間脳の形態と機能について説明できる 前回の講義確認テスト5
7回目	脳2 脳幹、小脳、脊髄の形態と機能について説明できる 前回の講義確認テスト6
	脊髄、脳の血管 脊髄の構造、脳の動脈・静脈について説明できる 前回の講義確認テスト7
	伝導路1 反射の分類、下行伝導路について説明できる 前回の講義確認テスト8
	伝導路2 上行伝導路について説明できる 前回の講義確認テスト9
	脳神経1 脳神経Ⅰ~Ⅳの構造と機能について説明できる 前回の講義確認テスト10
	脳神経2 脳神経V~皿の構造と機能について説明できる 前回の講義確認テスト11
13回目	脳神経3 脳神経区~2回の構造と機能について説明できる 前回の講義確認テスト12
	まとめ 前回の講義確認テスト13
15回目	中間試験
16回目	脊髄神経1 脊髄神経の構造、頸神経叢、腕神経叢(筋皮神経、正中神経)について説明できる
17回目	脊髄神経2 腕神経叢(尺骨神経、橈骨神経)、胸神経について説明できる 前回の講義確認テスト13
	脊髄神経3 腰神経叢、仙骨神経叢、デルマトームについて説明できる 前回の講義確認テスト14
	神経系の機能1 反射と反射弓について説明できる 前回の講義確認テスト15
	学期末試験
	神経系の機能3 内臓反射、視床下部の機能ついて説明できる 前回の講義確認テスト17
22回目	神経系の機能4 運動の調整、脊髄反射について説明できる 前回の講義確認テスト18
23回目	神経系の機能5 脊髄反射、脳幹を中枢とする運動機能について説明できる 前回の講義確認テスト18
	神経系の機能6 小脳の機能について説明できる 前回の講義確認テスト19
25回目	神経系の機能7 大脳基底核と新皮質連合野の統合について説明できる 前回の講義確認テスト20
26回目	神経系の機能8 新皮質運動野の機能について説明できる 前回の講義確認テスト21
	神経系の機能9 新皮質連合野の統合機能について説明できる 前回の講義確認テスト22
	まとめ1 前回の講義確認テスト23
	まとめ2
30回目	試験
31回目	感覚器板論について説明できる。
	皮膚の構造について説明できる。
33回目	皮膚感覚について説明できる。
34回目	視覚器の構造について説明できる。
35回目	視覚伝導路について説明できる。
36回目	平衡聴覚器の構造について説明できる。
37回目	平衡感覚、聴覚の伝導について説明できる。
38回目	嗅覚、味覚について説明できる。
39回目	まとめ、問題演習
40回目	試験·問題演習
推備学習 間外学習	毎回授業内で、前回の内容の確認テストを実施しますので、講義の復習が必要です。
	筆記試験(100%)

【使用教科書·教材·参考書】

生理学 全国柔道整復学校協会 監修 プリント教材

学科: 柔道整復科

科目名(英)	外科学概論	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 今村 公一 実務経験 〇
(50)	(Surgery)	授業	講義	総時間	60	開講区分 前期·後期
コース	共 通	形態	6件 9%	(単位)	3	曜日·時限 土日·不定

【授業の学習内容】

医療人として必要な外科学全般について、疾患の病態、原因、症状、予防、治療などについての基本を教科書およびプリントを使用して学習する。 本講義終了時には各々の項目について説明できるようになる。

※実務経験 外科学会専門医として、医療法人明楽会くまクリニック院長として外科診療に携わる。

【到達目標】

将来、柔道整復師と仕事をするうえで必要な外科学知識を身に付ける。国家試験問題に対応できる知識を身に付ける。脳神経外科疾患、甲状腺、頚部疾患、胸壁、呼吸器疾患、心臓、脈管疾患、乳腺、腹部外科疾患について重要な点、禁忌を理解し、各項目について説明できるようになる。

	授業計画·内容
1回目	総論 損傷 創傷について説明できる
2回目	総論 熱傷について説明できる
3回目	総論 炎症と外科感染症について説明できる
4回目	総論 腫瘍について説明できる
5回目	総論 ショックについて説明できる
6回目	総論 輸血 輸液について説明できる
7回目	総論 消毒と滅菌について説明できる
8回目	総論 手術について説明できる
9回目	総論 麻酔について説明できる:全身麻酔
10回目	総論 麻酔について説明できる:局所麻酔
11回目	総論 移植と免疫について説明できる
12回目	総論 出血と止血について説明できる:その1
13回目	総論 出血と止血について説明できる:その2
14回目	まとめ。オリジナルテストによる総復習など。
15回目	各論:脳神経外科疾患について説明できる。 その1
16回目	脳神経外科疾患について説明できる。その2
17回目	各論:心臓・脈管疾患 その1
18回目	心各論:臓・脈管疾患 その2
19回目	復習講義: 試験前対策
20回目	学期末試験
21回目	各論:脳神経外科疾患について説明できる.その1
22回目	各論:脳神経外科疾患について説明できる.その2
23回目	各論:心臓血管外科疾患について説明できる。 その1
24回目	各論:心臓血管外科疾患について説明できる。 その2
25回目	各論:呼吸器外科疾患について説明できる。
26回目	各論:腹部の外科疾患について説明できる。その1
27回目	各論:腹部の外科疾患について説明できる。その1
28回目	各論:肝臓,胆道系の外科疾患について説明できる。
29回目	各論:甲状腺,乳腺外科疾患について説明できる。総復習とオリジナルテスト
30回目	学期末試験
準備学習 時間外学習	事前予習ではなく復習が必要不可欠である為。自宅での学習をしっかりと行ってください。復習も講義後、速やかに要点をチェックするように心がけてください。また、講義前に教科書を読んだだけではわかりにくい内容もあると思いますこのため、復習に重点を置いて学習してください。復習は最低、講義プリントの再チェック、該当範囲の教科書のチェック、および講義小テストのチェックを行ってください。
評価方法	学期末試験(100%)により評価する。
	日常生活で見かける外科的疾患は癌などの腫瘍や外傷などに触れることがあるかと思います。医療人を目指すにあり、これらの知識を身につけておくことは将来、きっと役に立つと思います。頑張って学習してください!

学 科: 柔道整復科

Service and	高齢者・競技者の生理学的特徴	必修 選択	必修	年次		担当教員	兼松 隆
科目名(英)	商即有"双权有切主理子的特似	選択	92715	400	2	実務経験	0
127	Physiological characteristics of the elderly and athletes	授業		総時間	40	開講区分	前期
コース	共通	形態	講義	(単位)	2	曜日·時限	木曜1・2限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

高齢者・競技者の生理学的特徴を理解し、身体機能の維持・改善に役立てる知識を習得し臨床現場に応用できるようになる。 ※実務経験:歯科医院に10年間勤務

【到達目標】

①高齢者の生理的特徴としての構造・機能を説明できる ②競技者に生理的特徴としての構造・機能を説明できる

	授業計画•内容
108	高齢者・競技者の生理学的特徴 (over view)が説明できる
208	細胞・組織の加齢現象(細胞の加齢現象、生体膜と細胞内小器官の変化、体内水分量の変化)が説明できる
3周目	高齢者の生理的特徴(加齢による臓器機能の変化:神経系の変化)が説明できる
4回目	高齢者の生理的特徴(加齢による臓器機能の変化:運動器系の変化、感覚器系の変化)が説明できる
508	高齢者の生理的特徴(加齢による臓器機能の変化:循環器系の変化)が説明できる
6回目	高齢者の生理的特徴(加齢による臓器機能の変化:呼吸器系の変化、消化器系の変化、皮膚の変化)が説明できる 第1~6回の復習
7回目	発達と老化の理解(人間の成長と発達の基礎的理解、老年期の発達と成熟)について説明できる
8回目	発達と老化の理解(高齢者とその生活の理解)について説明できる
9回目	発達と老化の理解(老化に伴う心と身体の変化と日常生活、フレイル)について説明できる
10回目	発達と老化の理解(高齢者と健康、認知症)について説明できる
11回目	発達と老化の理解(高齢者と健康、骨粗鬆症、転倒)について説明できる
1200	発達と老化の理解(高齢者に多い疾患・障害: 睡眠障害・その他の疾患)が説明できる
13回日	発達と老化の理解(運動と加齢(歩行機能、平行機能、反応時間)について説明できる 第7~12回の復習
14回目	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化(小児から青年期の発育曲線・発育の特徴・呼吸循環系運動)が説明できる
15回目	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化(発育期の運動不足・過運動の影響、運動の発達と習熟、炎症のメカニズム)が説明できる
16回目	競技者の生理学的特徴・変化(運動生理学_エネルギー代謝、トレーニングによる筋・心肺機能の適応的変化・)が説明できる
17回目	競技者の生理学的特徴・変化(神経機構の変化・姿勢調節能力の変化)が説明できる
18回目	競技者の生理学的特徴・変化(脊髄における反射調節)が説明できる、高齢者や競技者が服用する薬と薬の効き方について説明できる
19回目	まとめの問題
20回目	学期末試験
準備学習 特聞外学習	今まで習った解剖学、生理学を含むため、それら学習内容の復習が必要です。
評価方法	筆記試験(100%)
	患者さんとして接する高齢者や競技者の生理的な特徴を学びます。この科目をとおして学習したことが施術の一助となればよいです。今後の柔道 整復師としての人生の為にも、本講義で必要な知識を身につけてください。

【使用教科書・教材・参考書】

生理学(全国柔道整復学校協会 監修) 及び 配布プリント 競技者の外傷予防(全国柔道整復学校協会 監修) 及び 配布プリント 柔道整復師と機能訓練指導(全国柔道整復学校協会 監修) 及び 配布プリント

学 科: 柔道整復科

especies	I I	必修	754344	1	155	担当教員	宇都宮 美咲
科目名 (英)	高齢者・競技者の生理学的特徴	必修 選択	必修	年次	2	実務経験	0
	Physiological characteristics of the elderly and athletes	投業	term	经時間	40	開講区分	前期
コース	桑整スポーツ	形脑	ia ex	(単位)	2	曜日·時限	月曜2限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

高齢者や発達途中の小児、また特殊なトレーニングを行う競技者の生理学的特徴について、学ぶ。 実務経験: 九州大学病院、福岡赤十字病院、九州大学、一般歯科医院などに勤務

【到達目標】

高齢者、小児、そして競技者の生理学的特徴を説明できるようになる。 また、その知識を日常生活や臨床実習において活用できるようになる。

	授業計画・内容	
108	細胞・組織の加齢現象について説明できる	
2回目	神経系の加齢変化について説明できる	
3回目	運動器系の加齢変化について説明できる	
408	感覚器系の加齢変化について説明できる	
500	循環系・消化器系の加齢変化について説明できる	
6回日	高齢者に多い疾患障害について説明できる	
7回目	高齢者体験(実習)	
8回目	高齢者体験(実習)	
9回日	小児期から青年期の発達曲線について説明できる	
10回目	小児期から青年期の呼吸系機能と運動について説明できる	
1100	小児期から青年期の循環系機能と運動について説明できる	
12回目	運動の発達と習熟について説明できる①	
13🗐 🖟	運動の発達と習熟について説明できる②	
14回日	競技者においてトレーニングによる筋機能の適応的変化について説明できる	
15回目	競技者においてトレーニングによる心機能の適応的変化について説明できる	
16回日	競技者においてトレーニングによる肺機能の適応的変化について説明できる	
17回日	眼球運動と姿勢制御について説明できる	
18回目	試験対策	
19回目	試験対策	
20回目	学期末試験	
準備学習 時間外学習	講義の中で可能な限り、理解し、必要であれば、自宅学習を行う。	
評価方法	筆記試験(100%)	
と講生への メッセージ	少ない時間でもよいので、毎回行う確認テストを中心に復習し、その都度知識を定着させていくことが望ましい。	
【使用数料	書・教材・参考書】	

学 科: 柔道整復科

科目名(英)	AND ARE CLUB AND	必修	N He	Je va	_	担当教員	野口 義失
	一般臨床医学	必修 選択	必修	年次	2	実務経験	0
	Medical Science Lecutures	授業	20:03	総時間	80	開講区分	通年
コース	午前集中	形態	演習	(単位)	4	曜日·時限	月曜日1.2限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

人における内科的障害についての診断の基礎を学び、各疾患においての異常症状について知識の修得を行い、正常、異常が判断できるようになり、本講義終 了時には各々の項目において説明できるようになる。 実務経験:福岡大学病院6年勤務 北川病院7年勤務

【到達目標】

内容は多岐にわたるが、診断重要点を理解しそれぞれの疾患について知識を深め、説明できるようになる。

	授業計画・内容
1回目	診察概論・医療面接について説明できる
2回目	体格・体型・体位・姿勢について説明できる
3回目	精神状態・異常運動・麻痺・運動失調について説明できる
408	歩行の異常・皮膚の状態について説明できる
5回日	頭部、顔面の視診について説明できる
6回目	論部・四肢の視診について説明できる
7回目	打診について説明できる
8 <u>0</u> 0	聴診(肺・心臓)について説明できる
900	聴診(腹部)について説明できる
10回目	触診①について説明できる
11回目	触診②・生命微候について説明できる
1200	感覚検査・反射検査・代表的な臨床症状について説明できる
1308	呼吸器疾患①について説明できる
14回目	呼吸器疾患②について説明できる
15回目	呼吸器疾患③について説明できる
16回目	循環器疾患①について説明できる
17回目	循環器疾患②について説明できる
18回目	循環器疾患③について説明できる
19回目	前期排末試験前まとめ
20回目	学期末試験

NEE	
21回目	消化器疾患①について説明できる
22回目	済化器疾患②について説明できる
23回目	消化器疾患③について説明できる
24回目	代謝疾患について説明できる
25回目	内分泌疾患①について説明できる
26回日	内分泌疾患②について説明できる
27回目	血液疾患①について説明できる
28回日	血液疾患②について説明できる
29回日	腎尿路疾患①について説明できる
30回目	腎尿路疾患②について説明できる
31回目	神経疾患①について説明できる
32回目	神経疾患②について説明できる
33回目	神経疾患③について説明できる
34回日	感染症について説明できる
35回目	膠原病①について説明できる
36回目	膠原病②について説明できる
37@ []	一般臨床医学総まとめ①
38回目	一般臨床医学総まとめ②
39回目	後期期末試験前まとめ
40回目	後期期末試験·解説
準備学習 時間外学習	内容は多咳にわたるため、毎回の復習を欠かさないでください。たとえ短時間の復習でも学習内容の記憶に関して大いに貢献します。反対に全く復習しないと、驚くほど連やかに記憶は失われ授業に参加した意味もなくなります。
評価方法	定期試験100%
	疾患、病気への理解をするためには基本的な症状などが大切である。、臨床上来院される患者の中には内料的疾患をもつ方もおられる。外傷、 障害以外で患者の変化にいち早く気付き、医科との連携をするために必要な知識である為、自宅学習をすることが望ましい。
	書·教材·参考書】

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	一般臨床医学	必修	27.88	年次		担当教員	小原 直
	一般临床医子	必修 選択	必修	华汉	1 4	実務経験	0
	Medical Science Lecures	授業	202.000	総時間	80	開講区分	前期·後期
コース	柔整スポーツ学科	形翅	演習	(単位)	4	曜日·時限	火曜3・4限(隔週)

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

を疾患に対して、その特徴や症状を理解する。またその回復経過、対処法を学び、適切な説明ができるようになる。 機能に異常が出た場合、身体にどのような症状が現れるのか理解をしてほしい。疾患については、呼吸器・循環器・消化器等、それぞれの疾患を説明してい く。 実務経験:内科医として44年今現在下関市の病院勤務

【到達目標】

内料診断学&内科学基礎を学ぶ

	授業計圖・内容	
101	医療面接 現病歴 主訴 既往歴等を患者から引き出すことができる	
2回目	視診 体型 体格 体位 意識レベル等を診ることができる	
308	視診 知能 精神状態 異常運動を診ることができる	
4回目	視診 不随意運動 異常歩行を診ることができる	
5回目	視診 皮膚の病的な状態を診ることができる	
6回目	生命微候 体温 血圧 脈等を診ることができる	
7回目	打診 胸部&心臓&腹部の打診を覚えることができる	
8回目	聴診 心臓&肺&腹部の聴診を覚えることができる	
9回目	聴診 腹部血管雑音等を覚えることができる	
10回目	表在知覚の分布を覚えることができる	
1100	深部難反射の仕方と意義を覚えることができる	
12回目	病的な反射やクローヌスを覚えることができる	
13回目	代表的な臨床症状 発熱 出血傾向 リンパ節腫大等の病的な意義について調べることができる	
14回目	呼吸器疾患 上気道炎&肺炎&ウイルス性肺炎&コロナ感染症について学ぶことができる	
15回目	呼吸器疾患 肺結核 肺癌 等について学ぶことができる	
16回目	呼吸器疾患 気管支喘息 自然気胸等について学ぶことができる	
17回目	呼吸器疾患 肺寒栓症等について学ぶことができる	
18回日	循環器疾患 症状や先天性心疾患について学ぶことができる	
1900	循環器疾患 狭心症&心筋梗塞について学ぶことができる	
2000 日	学期末試験	

21回目	循環器疾患 不整脈や大動脈や中小動脈疾患について学ぶことができる	
22回目	清化器疾患 食道&胃&十二指腸疾患について学ぶことができる	
23回目	消化器疾患 肝&胆&輝疾患について学ぶことができる	
240 🛙	消化器疾患 虫垂炎&大腸疾患&腸閉塞等について学ぶことができる	
25回目	内分泌代謝疾患 高脂血症&高尿酸血症&糖尿病について学ぶことができる	
26回目	内分泌疾患 脳下垂体疾患について学ぶことができる	
27回目	内分泌疾患 甲状腺&副腎&副甲状腺疾患について学ぶことができる	
28回目	血液造血器疾患 貧血の種類 や白血病について学ぶことができる	
29 🖽 🖽	血液造血器疾患 悪性リンパ腫や出血傾向をきたす疾患について学ぶことができる	
30回日	腎尿路疾患 糸球体腎炎やネフローゼ症候群 慢性腎臓病について学ぶことができる	
31回目	腎尿路疾患 急性腎不全&慢性腎不全や泌尿器科的疾患について学ぶことができる	
32回日	神経疾患 脳血管障害&脳腫瘍について学ぶことができる	
33回目	神経疾患 変性疾患や感染性神経疾患について学ぶことができる	
34回目	神経疾患 末梢神経疾患やパーキンソン病やアルツハイマー型認知症について学ぶことができる	
35@ 🗎	ウイルス感染一般&エイズ&コロナ感染症について学ぶことができる	
36回目	皮膚感染症や細菌感染について学ぶことができる	
37回目	慢性関節リウマチ&SLE&強皮症について学ぶ(膠原病)ことができる	
38回目	多発性筋炎&シェーグレン症候群&ベーチェット病について学ぶ(膠原病)ことができる	
39回日	結節性多発性動脈炎&リューマチ性多発筋痛症&アナフィラキシーショックについて学ぶことができる	
40回日	期末試験	
準備学習 時間外学習	解剖学を復習して下さい。	
評価方法	4択式マークシート方式試験100間そのうち50間は小テストより出題 年2回	
受講生への メッセージ	国家試験対策に敬します。口	
	I	

学 科: 柔道整復科

科目名	11 o 41 = 2 = 2 FF	必修	20.00	40.00	-	担当教員	齊藤貴文/岡真一郎
	リハビリテーション医学	必修 選択	必修	年次	- 4	実務経験	0
	Rehabilitation Medicine	授業	18.00	総時間	80	開講区分	午前集中コース
コース	共通	影戀	講義	(単位)	4	曜日·時限	火曜日·1限目

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

リハビリテーション医学は、患者のもつあらゆる障害に対し総合的に対処していくものである。医師だけで行えるものではなく、理学療法士、作業療法士をはじめとした多くの専門職が力を合わせて行っていかさければならない。 柔道整復師もその一員であることから、リハビリテーション医学の基本理念を理解し、その実践に必要な知識、技術を学び説明ができるようになる。 実務経験 齊藤貴文:クリニックにて臨床経験5年 関頁一郎:整影外科併設のクリニックで7年勤務

【到遠目標】

【到落目標】
①リハビリテーションの理念、対象者と設書者の実態、障害の階層とアプローチを説明できる。
②リハビリテーションの辞価学を説明できる。
③リハビリテーションの辞価学を説明できる。
③リハビリテーションの対像等を説明できる。
⑤リハビリテーション関連機を説明できる。
⑥理学療法、作業療法、書語販覚療法、補装具について説明できる。
②高齢者のリハビリテーションについて説明できる。
②神経疾患のリハビリテーションについて説明できる。
③神経疾患のリハビリテーションについて説明ができる。
④内部障害リハビリテーションについて説明ができる。
●加力部障害リハビリテーションについて説明ができる。
●加力部障害リハビリテーションについて説明ができる。

	投業計画・内容
1回目	リハビリテーションの理念について説明できる。
208	リハビリテーションの対象と障害者の実態について説明できる。
301	障害の階層とアブローチについて説明できる。
4回目	ICD、ICIDHについて説明できる。
5回目	ICFについて説明できる。
6回目	チームアプローチについて説明できる。
7回日	リハビリテーション評価学 I について説明できる。
801	リハビリテーション評価学Ⅱについて説明できる。
9回目	リハビリテーション評価学皿について説明できる。
10回目	リハビリテーション障害学 I について説明できる。
1108	リハビリテーション障害学Ⅱについて説明できる。
12回目	リハビリテーション障害学皿について説明できる。
13回目	リハビリテーション治療学 I について説明できる。
14回目	リハビリテーション治療学Ⅱについて説明できる。
15回目	リハビリテーション治療学Ⅲについて説明できる。
15回目	リハビリテーション医学の関連職種 I について説明できる。
17回目	リハビリテーション医学の関連職種Ⅱについて説明できる。
18回目	国家試験問題解説
19回目	試験対策
20回目	学期末試験

21回目	リハビリテーションの治療技術(理学療法)	
22回目	リハビリテーションの治療技術(理学療法:運動療法)	
23回目	リハビリテーションの治療技術(理学療法:物理療法)	
24回目	リハビリテーションの治療技術(作業療法、言語聴覚療法)	
25回目	リハビリテーションの治療技術(補装具:装具、義肢、歩行補助具、車いす、自助具)	
26回目	リハビリテーションの治療技術(臨床実習ケーススタディ)	
27回目	高齢者のリハビリテーション	
28回目	神経疾患(脳卒中、バーキンソン病)の障害とリハビリテーション	
29回日	脊髄損傷の障害とリハビリテーション	
30回目	肢体不自由児, 知的障害の病態とリハビリテーション	
31回目	内部障害の病態とリハビリテーション	
3200	運動器のリハビリテーション(骨折の治療と後療法)	
33回目	骨粗鬆症、捻挫の病態とリハビリテーション	
34回目	上肢損傷後症候群の病態とリハビリテーション	
35回目	下肢損傷後症候群の病態とリハビリテーション	
36回目	頭肩腕症候群の病態とリハビリテーション	
37回目	腰痛症の病態とリハビリテーション	
38回目	助骨骨折・アキレス腱断製の病態とリハビリテーション	
39回目	リハビリテーションの福祉、パラスボーツ	
40回日	筆記試験 解脱	
準備学習 時間外学習	教科書を読んで予管復習をすること。	
評価方法	雅記試験(100%)	
受講生への メッセージ	リハビリテーション医学を通して、治療医学と医学的リハビリテーションの違いと位置づけを学んでください。	
【使用教科	書・教材・参考書】	
リハビリテー	ーション医学 全国柔道整復学校協会 監修	

学 料:

柔道整復科

	ロンゼロニーとっと原像	必修	必修	年次	-	担当教員	北村匡大
科目名 (英)	リハビリテーション医学	必修 選択	30 %	平次 2	実務経験	0	
120	Rehabilitation Medicine	授業	in m	総時間	80	開講区分	前期·後期
コース	柔整スポーツ	授業 形態	講義	(単位)	4	曜日·時限	火3・4限(隔週)

【技業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

リハビリテーション医学は、患者のもつあらゆる障害に対し総合的に対処していくものである。昨今、医師、理学療法士、作業療法士、看護師、言語聴覚士等多くの専門職が力を合わせて患者へのニーズに対応し、支援していくテーム医療が求められる。柔道整復師もそのチームの一員であることため、リハビリテーション医学の理念、対象者、障害の実態を学び、評価、治療の知識、技術の必要性を理解する。 実務経験::2003年より急性期・回復期供設の病院で整形外科・脳神経外科・配臓外科・回復期リハビリテーション科におけるリハビリテーション診療に7年勤務

【到達目標】

①リハビリテーションの理念、対象者と障害者の実態、障害の階層とアプローチを説明できる。 ②リハビリテーションの評価学、障害学、治療学を説明できる。 ③リハビリテーション関連職種、高齢者のリハビリテーション、リハビリテーションの治療技術(理学療法、作業療法、言語聴覚療法、補装具)を説明できる。 ④高齢者(フレイル、医療制度、介護予防)、中枢疾患(脳卒中、パーキンソン病)、運動器疾患(骨折、捻挫)をのリハビリテーションを説明できる。

	投棄計画・内容
108	リハビリテーションの理念、リハビリテーションの対象と障害者の実態を説明できる
2回目	障害の階層を説明できる
3回目	障害のヘアプローチを説明できる
4回目	リハビリテーション評価学1について説明できる
5@ 🛙	リハビリテーション評価学2について説明できる
6回目	リハビリテーション評価学3について説明できる
7回目	リハビリテーション障害学1について説明できる
8回日	リハビリテーション障害学2について説明できる
9回目	リハビリテーション障害学3について説明できる
10回目	リハビリテーション障害学4について説明できる
1108	リハビリテーション治療学1について説明できる
12回目	リハビリテーション治療学2について説明できる
13回目	リハビリテーション治療学3について説明できる
14回目	リハビリテーション治療学4について説明できる
15回目	リハビリテーション医学の関連職種1について説明できる
16回日	リハビリテーション医学の関連職種2について説明できる
17回目	高齢者のリハビリテーション1について説明できる
18回目	高齢者のリハビリテーション2について説明できる
19回目	高齢者のリハビリテーション3について説明できる
20回日	学期末試験

リハビリテーション治療技術1について説明できる	
リハビリテーション治療技術2について説明できる	
リハビリテーション治療技術3について説明できる	
リハビリテーション治療技術4について説明できる	
リハビリテーション治療技術5について説明できる	
リハビリテーション治療技術6について説明できる	
リハビリテーション治療技術7について説明できる	
リハビリテーション治療技術8について説明できる	
高齢者のリハビリテーション1について説明できる	
高齢者のリハビリテーション2について説明できる	
高齢者のリハビリテーション3について説明できる	
中枢疾患のリハビリテーション1について説明できる	
中枢疾患のリハビリテーション2について説明できる	
中枢疾患のリハビリテーション3について説明できる	
中枢疾患のリハビリテーション4について説明できる	
適動器疾患のリハビリテーション1について説明できる	
運動器疾患のリハビリテーション2について説明できる	
運動器疾患のリハビリテーション3について説明できる	
運動器疾患のリハビリテーション4について説明できる	
学期試験	
数科書、資料を持参ください。 医学用語を忘れないように、復習を徴底しましょう。	
筆記試験(100%)	
リハビリテーションにおける評価と治療の関係を理解できると、リハビリテーションの必要性を知ることができます。 反復学習を繰り返し、理解できるようにしましょう。	
B·敬材·参考書]	
	リハビリテーション治療技術3について説明できる リハビリテーション治療技術3について説明できる リハビリテーション治療技術4について説明できる リハビリテーション治療技術4について説明できる リハビリテーション治療技術5について説明できる リハビリテーション治療技術5について説明できる リハビリテーション治療技術5について説明できる 高齢者のリハビリテーション1について説明できる 高齢者のリハビリテーション2について説明できる 事格疾患のリハビリテーション3について説明できる 中枢疾患のリハビリテーション3について説明できる 中枢疾患のリハビリテーション1について説明できる 中枢疾患のリハビリテーション1について説明できる 本教疾患のリハビリテーション1について説明できる 連動器疾患のリハビリテーション1について説明できる 運動器疾患のリハビリテーション1について説明できる 運動器疾患のリハビリテーション2について説明できる 運動器疾患のリハビリテーション3について説明できる 運動器疾患のリハビリテーション4について説明できる 運動器疾患のリハビリテーション3について説明できる 運動器疾患のリハビリテーション3について説明できる 運動器疾患のリハビリテーション3について説明できる 薬が発生者のよびいよう。 東記試験(100%)

学 科: 柔道整復科

	柔道整復術の適応	必修	必修	年次	-	担当教員	今村 公一
科目名 (英)	朱担至後州の地応	選択	90 WF 4-4	400	*	実務経験	0
	Adapting to Judo Therapy	授業	18.00	総時間	40	開講区分	後期
コース	共通	形態	誘殺	(単位)	2	曜日·時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

柔道整復師が整復を行うに当たり、患者に対する医療安全の観点から、対象ととなる運動疾患が業務範囲にあるかどうかを適切に判断し柔道整復析を適切に 実施できる能力をみにつけるようになる。 ※実務経験:外科学会専門医として外科診療に従事している。

【到途目標》

適切な柔道整復術を行うため、柔道整復が適応されるか否かの判断能力を養い、判断基準を説明できるようになる。また、柔整師で扱うべきでない急性き疾患 の判断機器を提示できることを目標とする。

	授業計画・内容
108	救急処置. 基本的なバイタルサインと正常値について説明できる。各部位の疼痛疾患を列挙できる。
2回目	腰痛疾患を説明できる。転移性脊椎腫瘍について説明できる。
3回目	化膿性炎症疾患、痛風、偽性痛風について説明できる。
4回目	軟部組織の圧迫損傷、血流障害を伴う損傷について説明できる。
5回目	脱臼、末梢神経の損傷疾患、その1 について説明できる。
608	末梢神経の損傷疾患、その2 について説明できる。
7回目	脱臼骨折疾患について説明できる。
808	外出血を伴う損傷について説明できる。
908	総復習、オリジナルテスト
10回目	病的骨折と病的脱臼 につき、例をあげたりして説明できる。
1101	意識障害を伴う損傷 その1 について説明できる。
12回目	意識障害を伴う損傷 その2 について説明できる。
13回目	意識障害を伴う損傷を中心にこれまでの総復習。
14回目	頸椎の損傷 その1 について説明できる。
15回首	頚椎の損傷 その2 について説明できる。
16回目	胸椎疾患、脊椎疾患について説明できる。
17回目	高エネルギー外傷について説明できる。
18@8	DIC、深部静脈血栓症について説明できる。
19回日	総復習、オリジナルテスト
20回目	学期末試験
準備学習 時間外学習	内職損傷、外科的疾患、骨折、脱臼など様々な疾患、損傷についての知識が必要な為、事前予習が必要である。
評価方法	筆記試験(100%)
受講生への メッセージ	将来の現場で柔道整復術が適応かどうかを見極めるための知識を習得する。患者さんにとって最善の選択をする柔道整復師になれるように学習 しましょう。
【使用教科	書・教材・参考書】
医療の中の	全道整復 南江堂

学 科: 柔道整復科

	2.12 To 40.00 To	必修	20.00	dorth		担当教員	吉原 稔
科目名 (英)	柔道整復学Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2	実務経験	0
127	Judo Therapy Ⅲ	授業	190.00	総時間	80	開講区分	前期・後期
コース	共通	形態	講義	(単位)	4	曜日·時限	火曜1・2・3限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

下肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷に対しての基礎的な知識から、臨床的な知識を教科書の内容をもとに指導する 実務経験: 平成22年から整形外科で約8年勤務し外傷の処置を経験し、6年間の整骨院勤務

【到達目標】

下肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷の基礎的な知識を取得し、実際にその知識を使用することができる

	授業計画・内容
100	骨盤骨折の発生機序と症状が説明できる
2回目	骨盤骨折の治療と後療法が説明できる
3回目	大腿骨近位骨折の発生機序と症状が説明できる
4回目	大腿骨近位骨折の治療と後療法が説明できる
5回目	大腿骨骨幹部骨折の発生機序と症状が説明できる
e 🗆 🗈	大腿骨骨幹部骨折の治療と後療法が説明できる
7回目	大腿骨遠位骨折の発生機序と症状が説明できる
8回目	膝蓋骨の発生機序と症状と後療法が説明できる
900	脛骨近位骨折の発生機序と症状と後療法が説明できる
10回目	下腿中央、遠位骨折の発生機序と症状と後療法が説明できる
11回目	下腿疲労骨折の発生機序と症状、治療、後療法が説明できる
12回目	下腿骨果部骨折の発生機序と症状が説明できる
13回目	下腿骨果部骨折の治療と後療法が説明できる
14回目	足根骨骨折の発生機序と症状が説明できる
15回目	足根骨骨折の治療と後療法が説明できる
16回日	中足骨骨折の発生機序と症状が説明できる
1700	中足骨骨折の治療法と後療法が説明できる
18回目	骨盤骨折から膝蓋骨骨折までの復習し、それぞれの基礎知識が説明できる
19回目	下腿骨骨折から足趾骨折までの復習し、それぞれの基礎知識が説明できる
20回目	学期末試験

21回日	殷関節脱臼の発生機序と症状が説明できる
22回目	殷関節殷臼の治療と後療法が説明できる
23回目	膝関節脱臼の発生機序と症状と治療、後療法が説明できる
24回目	腰蓋骨膜臼の発生機序と治療と後療法が説明できる
25回目	足趾脱臼の発生機序と症状が説明できる
26回目	殷関節の軟部組織損傷の発生機序、治療と後療法が説明できる
27回目	大腿部の軟部組織損傷の発生機序と症状、治療法が説明できる
28回目	 湊関節の靭帯損傷、軟部組織損傷症状と発生機序と治療法が説明できる
29回日	練関節の靱帯損傷、軟部組織損傷症状と発生機序と治療法が説明できる
30回日	膝関節前方軟部組織損傷の発生機序と症状と後療法が説明できる
31回目	膝周囲の軟部組織損傷の発生機序と症状、治療、後療法が説明できる
32@ [下腿の軟部組織損傷の発生機序と症状が説明できる
33回目	下腿骨疲労骨折の治療と後療法が説明できる
34回目	足関節周囲の発生機序と症状が説明できる
35回目	足関節周囲の治療と後療法が説明できる
36回目	足関節周囲の発生機序と症状が説明できる
37回目	足部の軟部組織損傷の治療法と後療法が説明できる
38回目	段関節、膝関節、足部の脱臼の復習し、それぞれの基礎知識が説明できる
39回目	股関節~足部の軟部組織損傷までの復習し、それぞれの基礎知識が説明できる
40回日	期末試験
準備学習 時間外学習	毎回の授業内容をその日のうちに復習する事が大切です。理解度チェック問題で自身の理解度を認識して復習に生かしましょう。
評価方法	学期末試験
受講生への メッセージ	柔道整復跡の業務の中でも多く遭遇する疾患を学んでいきます。また国家試験では必須の知識です。将来の役に立つ知識を一緒に学んでいき しょう。

学 科: 柔道整復科

	旅中高发验你做!	必修	N HT	AT Vit		担当教員	吉原 勉
科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅰ	必修 選択	必修	年次		実務経験	0
130	Clinical Judo Therapy [授業	ine	經時間	90	開講区分	前期·後期
コース	共通	形態	講報	(単位)	4	曜日·時限	金曜 1・2・3限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

臨床条道整復学では臨床上多く発生する、上肢骨折・駅臼を中心に各論における知識の習得を目指しながら、臨床の場により近い意識を持たせる。 実務経験 臨床経験38年 1986年~1991年 小山接骨院にて施術に関わり、1992年よりよしはら接骨院開業施術に関わり現在に至る。

【到達目標】

上肢骨折・脱臼の知識を臨床現場にて役立て施術を行えるようになる。

	授業計画・内容
回目	上腕骨類上骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
2回目	上腕骨外顆骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
3回目	上腕骨内側上顆骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
4回目	前腕両骨後方脱臼の症状・鑑別・治療法を理解し脱明できる様になる
5回目	前腕両骨前方脱臼・側方脱臼・分散脱臼の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
6回目	棟骨近位端部骨折(骨頭骨折・頸部骨折)の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
7回目	機骨頭部単独脱臼・肘内蹲の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
8回目	財頭骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
9回目	換骨骨幹部骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
10回自	ガレアジ骨折・尺骨骨幹部骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
11回目	モンテギア骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
12回目	境尺両骨骨幹部骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
13回目	コーレス骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
14回目	スミス・パートン・ショウファー骨折・骨端線離開の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
15回日	遠位模尺関節脱臼・換骨手視関節脱臼の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
16回目	舟状骨骨折・三角骨骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
17回目	有鈎骨・豆状骨・月状骨・大菱形骨・有頭骨骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
18回目	総復習
19回目	試験
20回目	学期末試験

21回目	中手骨部の骨折(骨頭・頭部・骨幹部骨折)の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる						
22回目	第1中手骨基底部骨折(ベネット・ローランド骨折)の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる						
23回目	指骨骨折(基節・骨幹部・骨頭・基部骨折)の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる						
24回目	末節骨骨折・マレットフィンガーの症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる						
25回目	月状骨脱臼・月状骨周囲の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる						
26回日	中手骨脱臼(CM/MP/MP以外)の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる						
27回目	指骨脱臼(PIP/DIP)の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる						
28回目	肋骨骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる標になる						
29回日	胸骨骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる						
30回日	胸椎骨折・胸腰椎移行部骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる						
31回目	腰椎骨折(椎体圧迫・チャンス・破裂・横突起骨折)の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる						
32回目	肩部の軟部組織損傷(筋・腱損傷/上腕二頭筋長頭腱損傷)の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる						
33@ 🖥	肩部のスポーツ損傷(ベネット・SLAP損傷)の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる						
34回目	肩部インピンメント症候群・リトルリーガー肩の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる						
35回目	肩部不安定症・末梢N障害・橈骨N・尺骨N損傷・五十肩の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる						
36回目	肘部の軟部組織損傷(靭帯損傷・野球肘)の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる						
37回日	肘部の軟部組織損傷(テニス肘・上顎炎・その他の疾患)の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる						
38回目	総復習						
39回目	試験						
40回目	試験解説						
41回目	特別講義						
42回目	特別講義						
43回目	特別講義						
44回目	特別講義						
45回目	特別講義						
準備学習 時間外学習	柔道整復学理論編、実技編の予習・復習を行う。						
評価方法	筆記試験						
受講生への メッセージ	臨床に関わり、国家試験対策としても重要な科目であるため、欠席をしないようにしてください。						
【使用数料	書·敬材·参考書]						

学 科: 柔道整復科

1	競技者の外傷予防	必修 遊択	必修	年次	2	担当教員	城村 拓也
科目名 (英)						実務経験	0
~	Injury Prevention for Athletes	授業 形態	演習	総時間 (単位)	40	開講区分	後期
コース	共通				2	曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

日常業務で患者を危険に唱さないために必要な能力を養うため、外傷に類似した症状を示す疾患の判別や外傷に潜んでいる危険な徴検を理解し、本講義終 了時には各項目において設明できるようになる。 実務経験:10年(壁形外科2年・小規模多機能居宅介援2年・鍼灸接骨院5年・自費リハビリ施設1年)

【到達目標】

①監床所見から、施術に適する損傷と適さない損傷を的確に判断できるようになる。 外傷予防に必要な知識と方法を理解し、安全に外傷予防としての柔道整復衛を提供するための能力を身につける。 ③柔道整復学の特徴、限界を知り、最適な治療環境が選択できるよう支援できるようになる。

2

	授業計画・内容
100	外傷予防(総論)を理解する 柔道整復理論第7版P137~p145
2回目	運動のメリット・デメリット・筋疲労について説明できる P1 ~ P12
3@ []	運動と呼吸・循環について説明できる P12 ~ P19
4回目	運動とホルモン・運動生理学的特徴について説明できる P20 ~ P25
5回目	競技者の外傷予防・直接的誘発要因について説明できる P27 ~ P37
6回目	外傷の予防対策・全身関節弛緩性テスト・筋タイトネステスト・アライメント測定について説明できる P39 ~ P44
7回目	外傷予防のコンディショニングの方法・徒手抵抗ストレッチングについて説明できる P45 ~ P52
8回目	パートナーストレッチング・下腿ストレッチングについて説明できる P53 ~ P59
9回目	スポーツマッサージの実際について説明できる① P60~ P64
10回目	スポーツマッサージの実際について説明できる(2) P60~ P64
1108	スポーツテービングの方法について説明できる 足関節・膝関節 P64 ~ P75
12回目	競技における伸縮テービングについて説明できる P76 ~ P85
13回目	外傷予防トレーニングについて説明できる P85 ~ P94
1400	柔道における肩関節の外傷予防、水泳における体幹の障害予防について説明できる P97 ~ 105
15回目	バスケットポールにおける膝関節の外傷予防、サッカーにおける足関節の外傷予防について説明できる P108 ~ 116
16回目	成長期の·高齢者外傷予防について説明できる P121 ~ 130
17回目	高齢者・競技者の外傷予防についてのまとめを説明できる P102 ~ 130
18回目	総復習
19回日	総復習
20回目	学期末試験
	1年次から得ている知識を活用する授業であるため、復習(とくに解削生理学)が必須の科目である。 国家試験対策としても主要科目である解剖学・生理学・柔道整復理論の復習を行うようにしてください。
評価方法	筆紀試験(100%)
	整形外科・接骨院に就職後、患者を施術する上てとても重要な科目となります。正しく対応することが出来なければ、患者さんが不利益を被るこ になります。欠席など無いように受講してください。
【使用教科	書・教材・参考書】

学 科: 柔道整復科

	桑道整復実技 1	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	水元 宏哉
科目名 (英)						実務経験	0
127	Advanced Judo TherapeuticLab I	授業 影脑	実技	総時間 (単位)	90	開講区分	通年
コース	共通					曜日·時限	月曜日1.2.4限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

各疾患の理論を説明し、理解が得られたところで実技指導を行う。その後、実技のグループ・ペアに分かれて臨床症状及び整復前の確認、整復法、整復後の確認、固定法を学ぶ。 実務経験: 整形外科2年 整骨院7年勤務

【到这目標】

- 臨床に応用できる技術を取得する。
 実際の患者と想定しながら接し、気を配り真摯な態度で接することができる。

	授業計画·內容					
100	肩鎖関節上方脱臼の整復について実践できる					
2回目	肩鎖関節上方脱臼の整復について実践できる					
301	肩鎖関節上方脱臼の固定について実践できる					
4回目	肩鎖関節上方説臼の固定について実践できる					
500 8	肩関節前方脱臼の整復について実践できる					
6 0 8	肩関節前方脱臼の整復について実践できる					
7回目	層関節前方脱臼の固定について実践できる					
8 0 8	肩関節前方脱臼の固定について実践できる					
100	復習					
0回日	試験					
100	財関節後方脱臼の整復について実践できる					
2回目	計製節後方脱臼の整復について実践できる					
3018	財関節後方脱臼の固定について実践できる					
4回目	射関節後方脱臼の固定について実践できる					
5回目	手第2指PP関節背側脱臼固定について実践できる					
6 0 1	手第2指PP関節背側脱臼固定について実践できる					
7回目	第5中手骨頭部骨折固定について実践できる					
801	第5中手骨頭部骨折固定について実践できる					
9回目	復習					
0回目	学期末試験					

2	
21回目	助骨骨折固定について実践できる
22回目	助骨骨折固定について実践できる
23回目	膝関節側副靱帯(内側側副靱帯)損傷について実践できる
24回目	膝関節側副靱帯(内側側副靱帯)損傷について実践できる
25回目	膝関節内側側副靱帯損傷固定について実践できる
26@ 🗎	膝関節内側側副靱帯損傷固定について実践できる
27回目	足関節外側靭帯損傷について実践できる
28回目	足関節外側靭帯損傷について実践できる
290 日	復習
30回目	試験
31回目	足関節外側靱帯損傷副子固定について実践できる
32回目	足関節外側靱帯損傷副子固定について実践できる
33@目	足関節外側靱帯損傷バスケットウィーブテーブ固定について実践できる
34回目	足関節外側靭帯損傷バスケットウィーブテーブ固定について実践できる
35回目	足関節外側靱帯損傷フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定について実践できる
36@8	足関節外側靱帯損傷フィギュアエイト・ヒールロックテーブ固定について実践できる
3700	復習
38回目	前期の復習
39回日	復習
40回目	試験
41回目	特別講發
42回目	特別講報
43回目	特別講義
44回目	特別課義
45回目	特別講義
準備学習 時間外学習	1年生で学習した骨・筋を理解しておく。
評価方法	実技試験・平常点にて総合的に評価
受講生への メッセージ	毎回出席するように。
【使用教料	書・教材・参考書】
柔道整復学	- 実技編改定第2版

学 科: 柔道整復科

	ALL THE SECRETARY III	必修	27.90	ar w		担当教員	塚本 輝
科目名 (英)	柔道整復実技Ⅱ	必修 選択	必修	年次		実務経験	0
101	Advanced Judo Therapeutic Lab II	授業	TP-14	經時間	90	開講区分	通年
コース	共通	形態	実技	(単位)	3	曜日·時限	金曜日1.2.3限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

認定実技審査項目に沿った授業を実施する。具体的には審査項目の柔道整復学を復習した後、注意点と知識の確認後、実技を実施していく。 実務級験:8年(整形外料8年(常動・非常動含め)、鍼灸接骨院3年)

【到達目標】

認定実技審査項目の理解、実施、説明が出来る。

	授業計画・内容
108	鏡骨定型的骨折【転位のある定型的骨折】の整復について説明・実施することができる
2回目	鎮骨定型的骨折【転位のある定型的骨折】の整復について説明・実施することができる
3回目	鏡骨骨折【セイヤーSayerテーブ固定】について説明・実施することができる
4回目	鏡骨骨折【セイヤーSayerテープ固定】について説明・実施することができる
5回目	上腕骨外科顕骨折[転位のある外転型骨折]の整復について説明・実施することができる
6回目	上腕骨外科頭骨折[転位のある外転型骨折]の整復について説明・実施することができる
7回目	上腕骨骨幹部骨折【ミッデルドルフ三角副子固定】について説明・実施することができる
8回目	上腕骨骨幹部骨折【ミッデルドルフ三角副子固定】について説明・実施することができる
9回目	1回目-8回目について説明・実施することができる
10回目	中間試験
1108	コーレス骨折の整復について説明・実施することができる
12回目	コーレス骨折の整復について説明・実施することができる
13回目	コーレス骨折の固定について説明・実施することができる
14回目	コーレス骨折の固定について説明・実施することができる
15回目	計内障の整復について説明・実施することができる
16回日	肩腱板損傷検査法について説明・実施することができる
17回目	肩腱板損傷検査法について説明・実施することができる
1808	上腕二頭筋長頭腱損傷検査法について説明・実施することができる
19回日	上腕二頭筋長頭腱損傷検査法について説明・実施することができる
20回目	学期末試験

21回目	ハムストリングス損傷検査法について説明・実施することができる
22回目	ハムストリングス損傷検査法について説明・実施することができる
23回目	大腿四頭筋打撲検査法について説明・実施することができる
24回目	大腿四頭筋打撲検査法について説明・実施することができる
25回目	下腿損傷の固定に用いる固定具を作ることができる
26回日	下腿骨骨幹部骨折の固定について説明・実施することができる
27回目	下腿骨骨幹部骨折の固定について説明・実施することができる
28回目	アキレス謎断裂の固定について説明・実施することができる
29回目	アキレス腱断裂の固定について説明・実施することができる
30回目	中間試験
31回目	膝関節半月振(内側半月板)損傷検査法について説明・実施することができる。
32回目	膝関節半月板(内側半月板)損傷検査法について説明・実施することができる。
33@ [滕関節半月板(内側半月板)損傷検査法について説明・実施することができる。
34@ []	膝関節十字靱帯(前十字靱帯)損傷検査法について説明・実施することができる。
35回目	膝関節十字靱帯(前十字靱帯)損傷検査法について説明・実施することができる。
36回目	腰関節十字靱帯(前十字靱帯)損傷検査法について説明・実施することができる。
37回目	下腿三頭筋損傷検査法について説明・実施することができる。
38回目	下腿三頭筋損傷検査法について説明・実施することができる。
39回目	総復習
40回目	期末試験
41回日	特別講義
42回目	特別講義
43回目	特別講義
44回目	特別調整
4500	特別講義
準備学習 時間外学習	就寝前30分・起床後30分にイメージトレーニングを行ってください。人間の脳のメモリーを効率よく寝働させていく習慣を身につけることが認定実 技審査合格、国家試験合格への近道となります。日中や空いた時間に付箋やノートに知識を纏めることも重要です。睡眠はしっかりと取って1年を 乗り切っていきましょう。
評価方法	実技試験(中間・期末)・平常点
受講生への メッセージ	各論の実技は理論を基に行ってください。イメージを持って何度も被害することが非常に重要となります。分からない事があれば1年生に習った事を復習して3年生になった時までに基礎をしっかりとつけておきましょう。
【使用教科	書·教材·参考書]

学 科: 桑道整復科

						-	The state of the s
	臨床実習	必修 選択	必信	华次	2	担当教員	齊藤 智仁
科目名 (英)			9016			実務経験	0
	Clinical Practice	授集	on to	総時間	90	開講区分	通年
コース	共通	形態	美容	(単位)	2	曜日·時限	木曜1, 2, 3限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

【改集の子首内容】 (次失格な状ののの数員、知光を有する数員か、とのような文法を失絶するのか、条体を引上に数す ※実務機験、整骨院で7年 体験性態度実管に違えて、主路及び現状歴・既社歴・家族歴・社会歴聴動のロールプレイ 施明録の説明・検査所見記載の実施。主要関節のROM測定、筋力測定、核手検査、反射検査、運動機能検査、エコー検査の実施 主要関節の包帯被張(テービング)の実施

上訴及び現状因を把握することができる。既後世・家族歴・社会団を聴取することができる。施術録の説明・検査所見記載ができる。主要関節のROM測定、能力測定、後手地査、反射検査、連動機能検査、超音波診断設置の理解と誘繋ができる 主要関節の包帯後覆(テービング)ができる

	授業計画・内容
188	外部実習に隠む心得(身嗜み・挟拶・言葉遣い)、患者の誘導・施術室清潔保持の重要性・守和義務について説明ができる
2回目	施術録の記載(設明)・物理療法機器の使用(説明)がエコー検査の説明ができる
388	肩閉節の評価(ROM・MMT)、検査(徒手・反射)、エコー検査の実施ができる
4回目	肩側節の評価(ROM・MMT)、検査(徒手・反射)、エコー検査ができる
5回日	開閉師の評価(ROM・MMT)、検査(後干・反射)、エコー検査の実施ができる
6回目	財~手関節の評価(ROM・MMT)、エコー検査が実施できる
7回目	討~手関節の評価(ROM・MMT)、エコー検査が実施できる
日四4	計~手間節の評価(ROM・MMT)、エコー検査が実施できる
9回日	設問節の評価(ROM-MMT)、接査、被覆包帯ができる
10988	藤陵節の評価(ROM-MMT)、検査、エコー検査が実施できる
1100	膝関節の評価(ROM-MMT)、検査、エコー検査が実施できる
12回日	足関節の評価(ROM-MMT)、検査、エコー検査が実施できる
13回日	足関節の評価(ROM-MMT)、検査、エコー検査が実施できる
14回日	実習前説明会
15回日	足関節の評価(ROM-MMT)、検査、エコー検査が実施できる
16回日	レントゲン、CT、MRI、骨シンチグラフィ、骨密度の測定について説明できる
17回日	骨折の見分け方、鑑別について説明できる
18回日	スポーツ現場における薬道整復師の役割を実践できる
19回日	スポーツ現場における柔道整復師の役割を実践できる
20回日	災害時に必要な実践的な能力を身につけている
21回日	テービング技術(患部の運動制限・疼痛緩和・血行障害の予防)などの技術を説明できる
22回日	テービング技術(患部の運動制限・疼痛緩和・血行障害の予防)などの技術を修得する
23500	テービング技術(患部の運動制限・疼痛緩和・血行障害の予防)などの技術を適切に実施できる
24回日	医の倫理、社会保障について説明できる
25回目	リスクマネジメント、説明と問意について説明が出来る
26回日	施術録の記載(説明)、態度、付帯業務の説明が出来る
27回日	エコー復習
28回日	エコー復営
29(0) (0)	エコー復習
30回 E	OSCE試驗対策、試驗説明
31698	OSCE試驗対策、試驗説明
3200 🖯	OSCE試驗対策、試驗說明
33@8	OSCE試験対策、試験説明
34EEE	臨床実習前施新試験等計価(OSCE)
35回目	蓝床実習前施術試験等評価(OSCE)
36EB	経床実習前施術試験等評価(OSCE)合格者同士でグループ学習(学生目標設定・評価基準の共有)ができる
3788	経験したすることができる
3899	レポート作成
5.GTR	総株実営は平後に承道整理師を実とするには重要な事を根据した学習となります。患者との向き合い方から胚析技術まで多味に進るため基本 解剖生理学、一般臨床医学、柔道整理学を自宅学習でインブットして学内でアウトブットの練習、学外実習で経験したことを持ち帰り、自身の知 技術の軌道修正を行ってください。
华僑方法	臨床実習ガイドラインに刻る
減生への シセージ	卒後働く上で潰毛重要な事は『患者(クライエント)のニーズに応えることになります。楽道整復師の来は多峻に渡る為、まずは基礎学習の音信 て傾聴、アドバイスが出来るような、患者に寄り添う楽道整復師であってください。
an man to	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	初到 大理學	必修 選択 必修 授業 形態 講義	All the		担当教員	辻康夫	
	解剖·生理学		9015	年次	3	実務経験	0
	Anatomy and Physiology		18.00	総時間	60	開講区分	前期·後期前半
コース	共通		द्वारी वृद्ध	(単位)	3	曜日·時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

解剖学では正常な身体の構造や機能についてを学ぶ学問であり、生理学では生体の正常な働きや生命現象の基本を学ぶ学問である。この2つの学問から人体の構造と機能を関連付ける知識を身につける。 実務経験:九州大学病院7年、てりは矯正歯科9年歯科臨床に携わる。

人体の生命現象と正常機能および体表から見た各器官について理解する。国家試験対策として1,2年生時の内容を復習し知識を確実なものとする

	授業計画・内容
1回目	体温とその調節1 熱産生、熱放散について説明できる。
2回目	体温とその調節2 高体温、発熱の機序について説明できる。
3回目	体温調節機構 体表の区分 体表から触れる骨・筋について説明できる。
4回目	体表から見た胸部・腹部の区分、 脈管、内臓との関連について説明できる。
5回目	循環器復習1:心臓、胸部腹部の栄養血管と内臓の関連について説明できる。
6回目	循環器復習2:骨盤、下肢の血管について説明できる。(問題演習)
7回目	循環器復習3:上肢の血管について説明できる。(問題演習)
8回目	循環器復習3:頭頚部の血管について説明できる。(問題演習)
9回目	循環器復習4:体表から触れる血管について説明できる。(問題演習)
10回目	循環器復習5:静脈特殊循環系について説明できる。(問題演習)
11回目	循環器復習5:リンパ系について説明できる。(問題演習)
12回目	神経系復習1:中枢神経の区分、大脳皮質と機能局在について説明できる。
13回目	神経系復習2:脳幹と脊髄について説明できる。
14回目	神経系復習3:伝導路(下行性)について説明できる。
15回目	神経系復習4:伝導路(上行性)について説明できる。
16回目	神経系復習5:中枢神経について説明できる。(問題演習)
17回目	神経系復習5:脊髄神経1について説明できる。
18回目	神経系復習5:脊髄神経2について説明できる。
19回目	神経系復習5:問題演習
20回目	定期試験、解答解説

【使用教科	書・教材・参考書】
受講生への メッセージ	正常な人体の構造、機能、機序を学ぶ解剖学、生理学は柔道整復師として必須項目であり、十分な理解が望まれる。また、国家試験を意識して重要項目の理解、記憶に努めてほしい。体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい
評価方法	定期試験100%
準備学習 時間外学習	重要事項は必ず教科書にて確認する 演習問題は事前に解き、選択肢の内容を確実に把握する
30回目	定期試験、解答解説
29回目	総合問題漢習
28回目	生殖器系復習:問題演習
27回目	生殖器系復習:性周期とホルモンについて説明できる。
26回目	泌尿器系復習1:男性、女性生殖器の構造について説明できる。
25回目	泌尿器系復習1:再吸収と分泌について説明できる。
24回目	泌尿器系復習1:腎臓の構造、尿産生機構について説明できる。
23回目	神経系復習5:問題演習
22回目	神経系復習5:脳神経2について説明できる。
21回目	神経系復習5:脳神経1について説明できる。

学 科: 柔道整復科

科目名(英)	衛生学・公衆衛生学	必修 選択 必修 授業 選業	年次		担当教員	宇都宮 美咲	
	阐主子 公永刚主子		9016	44	3	実務経験	0
	Hygiene/Public Health		58 m	総時間	60	開講区分	前期·後期前半
コース	共通	形態		(単位)	3	曜日·時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 衛生学・公衆衛生学を学ぶ事で、現代社会で最も重要とされる問題の一つである慈染症対策を含め、個々の健康を守るためだけでなく、地域社会へ貢献する 為にも必要不可欠な知識を本講義で習得する。 実務経験 九州大学病院、福岡赤十字病院、九州大学、一般歯科医院などに勤務

【到達目標】

衛生学の基礎知識を習得し、説明ができるようになる。

or sugar	授業計画・内容						
108	人口統計および保健衛生統計について理解する						
2回目	生活の役割 健康の測定・人口ピラミッド、人口静態統計 人口動態統計について理解する						
3回目	疾病の自然史 危険因子 疾病予防の段階について理解する						
401	感染症とは、感染症成立の条件、その他の感染症について理解する						
5回目	ウィルス感染症、細菌感染症について理解する						
608	感染症の予防対策について理解する						
7回目	消毒の意義 種類と方法、院内感染対策について理解する						
8回目	環境問題:温暖化、砂漠化、酸性雨などについて理解する						
9回目	公害:考え方、歴史、わが国の四大公害訴訟について理解する						
10回目	空気の衛生: 成常成分、異常成分、内分泌かく乱物質について理解する						
11回目	水の衛生と水質汚濁:上水、下水、健康被害について理解する						
12回目	住居:健康な住居の原則について理解する						
13回目	食品衛生活動:食中毒、安全対策、栄養対策について理解する						
1408	母子保健の指標、母子保健行政、対策について理解する						
15回目	学校保健管理、保健教育:学校・指導について理解する						
16回目	産業保健の目的:職業病とその対策について理解する						
17回目	健康診断、健康増進、リハビリテーションについて理解する						
18回目	生活習慣病:がん、脳血管疾患、心疾患について理解する						
19回目	前期総復習						
20回目	前期定期試験·解答解説						

【使用教科	書・教材・参考書】
受講生への メッセージ	国家試験も近いので、対策もその都度行っていきます。
評価方法	定期試験100%
準備学習 時間外学習	衛生学の基礎知識を習得し、説明ができるようになる。
30回目	後期前半定期試験·解答解説
29回目	後期前半総復習
28回目	調査対象、記述疫学、分析疫学(コーホート研究 症例対照研究)について理解する
27回目	ヒヤリハット、インシデント、アクシデント、インフォームドコンセントについて理解する
26回目	医療保険:制度の概要、保険給付、医療費の分析について理解する
25回目	衛生行政機構、国・都道府県・保健所・市町村について理解する
24回目	ブライマリヘルスケア・ヘルス、プロモーション、WHOの活動について理解する
23回目	精神の病気:物質関連障害、認知症、気分障害について理解する
22回目	精神の病気:統合失調症、心身症、不安障害について理解する
21回目	高齢者福祉、認知症支援、介護保健について理解する

学 科: 柔道整復科

	중선 점소 24 등 4 400	必修	an her	de vio	2	担当教員	塚本 輝
科目名 (英)	整形外科学	選択	必修	年次	3	実務経験	0
127	Orthopedic Surgery	授業	580.000	総時間	60	開講区分	前期·後期前半
コース	共通	形態	講義	(単位)	3	曜日·時限	木曜2.3.4限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 整形外科学的検査や診察法を学習することにより、専門的知識を習得することはもちろんのこと、医接連携のとれる柔整師になれるようになる。 実務経験:8年(整形外科8年(常勤・非常勤含め)、鍼灸接骨院3年)

【到達目標】

①整形外科的診察法を実践できる ②画像診断について説明できる ③整形外科的腫瘍について理解し説明ができるようになる ④国家試験に対応できるレベルの理解力を取得する

	授業計画・内容
108	運動器の基礎知識について理解する
2回目	整形外科診察法について理解する
3回目	整形外科検査法について理解する
408	整形外科的治療法について理解する
5回目	骨関節損傷総論について理解する
6回目	スポーツ外傷 総論・リハビリテーション総論について理解する
7回目	感染症について理解する
8回目	骨腫瘍について理解する
9回目	軟部腫瘍について理解する
10回目	関節リウマチ(OA)について理解する
1108	全身性の骨軟部疾患について理解する
12回目	骨系統疾患について理解する
13回目	全身性疾患について理解する
14回目	骨端症について理解する
15回目	神経麻痺について理解する
16回目	全身性神経線維症について理解する
17回目	脊髄腫瘍について理解する
18回目	身体部位別各論 頚部・胸椎部について理解する
19回目	前期総復習
20回目	前期定期試験

21回目	身体部位別各論 肩 について理解する
22回目	身体部位別各論 上腕 について理解する
23回目	身体部位別各論 肘・前腕 について理解する
24回目	身体部位別各論 手関節・手 について理解する
25回目	身体部位別各論 骨盤 について理解する
26回目	身体部位別各論 股関節 について理解する
27回目	身体部位別各論 大腿 について理解する
28回目	身体部位別各論 膝・下腿 について理解する
29回目	後期前半総復習
30回目	後期前半定期試験
準備学習 時間外学習	各授業の復習を家庭で実施してください
評価方法	定期試験100%
受講生への メッセージ	黎彩外科の領域は季道黎復師の業務と関わりが深い内容です。正しい知識を身につけ、それぞれの業務範囲の中で医療連携がとれるようにない。
W 144 100 10 10 10 1	書・教材・参考書】

学 科: 柔道整復科

	BB (Z >+ +B	必修	21.89	de ve		担当教員	内田 雅人
科目名 (英)	関係法規	必修 選択	必修	年次	3	実務経験	0
127	Regulation	授業	40.00	総時間	40	開講区分	前期
コース	共通	影態	講義	(単位)	2	曜日·時限	月曜日1.2.3限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

を適整復師の法規について学習し、資格の位置づけ、資格の特徴、医療の中での柔道整復師などのようなものであるかを学習し説明ができるようになる。国家試験の必修項目である分野(柔整跡法、各医療法規、医療法)の頻出するところは繰り返し学習する。また難しいイメージがある法律を経解き苦手意識を持たないよう砕いた言葉で説明を行い、具体例を挙げながら説明していく。 実務経験:整骨院・鍼灸院12年勤務

【到達日煙】

資格、医療について理解して、各項目(免許、守秘義務、業務範囲、広告、医師法、薬事法、各種保健法)について説明できるようになる。

	授業計画·内容	
108	序論P1~P7	
201	柔道整復師法とその関連内容(免許申請まで)P9~P14	
308	柔道整復師名簿から免許証又は免許証明書の返納及び提出P14~P19	
408	桑道整復師国家試験について理解するP20~P23	
508	業務について理解するP24~28	
6回目	施術所について理解するP29~P32	
7回目	雑則について理解するP33~P36	
80B	罰則・指定登録機関及び指定試験機関について理解するP37~P45	
9回目	医療従事者の資格法・医療法について理解する(医師法)P47~P54	
10回日	医療従事者の資格法・医療法について理解する(歯科医師法・保健師助産師看護師法)P54~P58	
11回目	医療従事者の資格法・医療法について理解する(診療放射線技師~言語聴覚士)P59~P64	
12回目	医療従事者の資格法・医療法について理解する(臨床工学技士~薬剤師)P64~P68	
13 🖺 🗎	医療法について理解する(第1章)P69~P73	
14回日	医療法について理解する(第2·3章)P73~P79	
15回目	医療法について理解する(第4章)P79~P86	
16回目	医療法について理解する(第5章・6章)P86~P90	
17回目	社会福祉関係法規について理解するP91~P95	
18回目	社会保険関係法規P96~P104	
19回目	その他の関係法規について理解するP105~P109	
20回目	前期定期試験・解答解説	
準備学習 時間外学習	この学習では復習が大事である為、自宅学習の実施をすることが大切である。	
評価方法	定期試験100%	
と講生への メッセージ	必修で必ず出題されるが、前期の授業なので忘れない為にもしっかりと授業を受講してください。 教科書・ノートは必ず持参してください。	
【使用教料	書・教材・参考書】	

学 科: 柔道整復科

	成产某类数值类 T	必修	N BS	年次		担当教員	米女 博司
科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅱ	選択	必修	44	3	実務経験	0
(2/	Clinical judo Therapy II	授業	18.90	総時間	60	開講区分	前期·後期前半
コース	共通	形態	講義	(単位)	3	曜日·時限	月曜1, 2, 4限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

ても学習する。

※実務経験:日本柔道整復専門学校附属接骨院勤務1987年~1994年 新ゆり整形外科非常勤で勤務 よねめ接骨院勤務(1994年~2004年)

【到達目標】

- ・骨の形を3次元で把握する。・筋の起始部、停止部を理解することで運動方向を把握する。
- ・運動器に関係する神経とその神経叢を理解する。

	授業計画·内容
108	イントロ(運動器を理解する目的など) 頚神経叢 腕神経叢を理解し、イメージすることが出来る。①
2回目	頚神経叢 腕神経叢を理解し、イメージすることが出来る。②
3回目	上肢帯の骨(鎖骨・肩甲骨)、肩鎖関節、上肢帯筋と支配神経を理解し、イメージすることが出来る。
4回目	上腕骨、肩関節、上腕尾筋、上腕伸筋と支配神経を理解し、イメージすることが出来る。
5回目	上肢帯から上腕部までの復習を行うことで理解を深めイメージすることが出来る。
6回目	前腕骨、肘関節、前腕尾筋と支配神経を理解し、理解し、イメージすることが出来る。①
7回目	前腕骨、肘関節、前腕尾筋と支配神経を理解し、理解し、イメージすることが出来る。②
8回目	手根骨、手関節、前腕伸筋と支配神経を理解し、理解し、イメージすることが出来る。①
9回目	手根骨、手関節、前腕伸筋と支配神経を理解し、理解し、イメージすることが出来る。②
10回目	中手骨、指骨、母指球筋、小指球筋、虫様筋、骨間筋と支配神経を理解し、イメージすることが出来る。
1108	前腕部から指尖までの復習を行うことで理解を深めイメージすることが出来る。
12回目	肩鎖関節、肩関節、肘関節、手関節及び上肢帯、自由上肢の筋(運動を含む)を総合的に復習理解することで、イメージすることが出来る。
13回目	腰神経叢、仙骨神経叢を理解し、イメージすることが出来る。
14回目	腰神経叢、仙骨神経叢を理解し、イメージすることが出来る。
15回目	下肢帯の骨(寛骨)、股関節、内寛骨筋、外寛骨筋と支配神経を理解し、イメージすることが出来る。①
16回目	下肢帯の骨(寛骨)、股関節、内寛骨筋、外寛骨筋と支配神経を理解し、イメージすることが出来る。②
17回目	続神経叢から下肢帯の骨、筋と支配神経までを復習理解し、イメージすることが出来る。①
18回目	腕神経叢から下肢帯の骨、筋と支配神経までを復習理解し、イメージすることが出来る。②
19回目	試験(試験範囲:腕神経叢から下肢帯の骨、筋と支配神経まで)
20回目	定期試験

21回日	大腿骨、膝関節、大腿伸筋、大腿屈筋と支配神経を理解し、理解し、イメージすることが出来る。
22回目	大腿内転筋、下腿伸筋、腓骨筋と支配神経を理解し、理解し、イメージすることが出来る。
23回目	下肢帯から大腿部までの復習を行うことで理解を深めイメージすることが出来る。
24回目	下腿尼筋、足関節、足根骨、中足骨、足の指骨と支配神経を理解し、理解し、イメージすることが出来る。
25回目	足の母指球筋、小指球筋、足背筋(足の短母指伸筋、短指伸筋)、短指壓筋、足底方形筋、虫横筋、骨間筋と支配神経を理解し、理解し、イメージすることが出来る
26回目	股関節、膝関節、足関節及び下肢帯、自由下肢の筋(運動を含む)を総合的に復習理解することで、イメージすることが出来る。
27回目	上肢・下肢の骨、筋、関節、運動と支配神経について総合的に復留理解することでイメージすることが出来る。①
28回目	上肢・下肢の骨、筋、関節、運動と支配神経について総合的に復習理解することでイメージすることが出来る。②
29回目	試験(試験範囲:上肢・下肢の骨、筋、関節、運動と支配神経なとについて)
30回目	定期試験
準備学習 時間外学習	・骨・筋・関節などの必要な名称を覚える。 ・骨・筋・関節の形状を三次元で理解するためイメージを活用する。 ・視覚・聴覚・触覚・運動を活用して記憶に刻む
評価方法	定期試験100%
受講生への メッセージ	実技の時は白衣、実技バッグ、シューズが必須です
	書・数材・参考書】

教科書:南江堂「解剖学」改訂第2版、「柔道整復理論」改訂第7版

学 科: 柔道整復科

stays!	and the fact that the same of	必修	20.40	年次	14	担当教員	超井 昭宏
科目名 (英)	臨床条道整復学 1	別数	必修	+4	-	実務経験	0
180	Clinical Judo Therapy I	授業郵信		经明期	90	間講区分	前期·後期
3-X	共通	投票部部	Ma	(単位)	4	曜日-時限	木曜 2:3:4限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どの様な授業を実施するのか、具体的に記載する)

衛度素道整模学では隣原上多く発生する、上販骨折・股目を中心に各論における知識の習得を目指しながら、循床の場により近い意識を持たせる。

実務経験:2002~2012年朝日医療専門学校広島校の付属接骨院にて動務。2013年より三愛接骨院を開業施療を行い現在に至る

【到達員標】

上肢の骨折・股臼および軟部組織損傷の知識を臨床現場にて投立て施術を行えるようになる。

	授業計画・内容
188	前級骨骨折:ガレアジ骨折
2回日	前腕骨骨折:モンテギア骨折
388	疫骨遠位端骨折:コーレス骨折①
4回日	換骨遠位縮骨折:コーレス骨折②
5回日	級脅遠位端骨折:スミス骨折・パートン骨折・ショウファー骨折
6回日	手根部の骨折: 舟杖骨骨折
7回目	手根部の骨折:三角骨骨折・有鈎骨骨折・豆状骨骨折
8E8	中手骨の骨折:頭部骨折
9回日	中手骨の骨折:骨幹部骨折
1028	中手骨の骨折:基部骨折・ベネット骨折・ローランド骨折
11988	指骨の骨折:基節骨骨折
12回日	指骨の骨折:中郎骨骨折
130 3 B	指骨の骨折:末節骨骨折・マレットフィンガー
14回日	遠位根尺関節の脱臼・쳱骨手根関節の脱臼
15@8	手根中手関節脱臼
1498	中手指節閉鎖節級臼-指節開閉節級臼
17回日	中時期節規章
1898	DIP開節脱臼
19回目	総復習
20回日	inter

21回目	離板損傷	
22回日	上腕二頭筋損傷	
23@8	ベネット網像・SLAP網傷	
24回日	肩峰下インピンジメント・リトルリーガー肩	
25回日	動採肩	
26回日	校扼神経師否	
27回目	五十肩	
28回日	野球肚·PLRI	
28回日	テニス計・上腕骨外側上顆炎	
30回日	前額コンパートメント・壁交叉症候群	
31回目	神経論書・神経論集(1)	
32回日	神経障害・神経麻痹(2)	
33回目	TFGC損傷	
34回日	腱鞘炎·骨端症	
35回目	手部の軟部組織損傷①	
35回日	手部の軟部組織損傷(2)	
37回目	手指の軟部組織損傷(1)	
	手指の軟部組織損傷(2)	
39回日	此復習	
40回日	試験	
準備学習 時間外学習	素道整復字理論幅。実技権の予書・復習を行う。	
評価方法	学纪308	
受講生への メッセージ	脳珠に関わり、開家試験対策としても重要な科目であるため、欠席をしないようにしてください。	
【使用数料	書·敬材·参考書]	

学 科: 柔道整復科

科目名(英)	Bir 子 学 \$ 6 4 4 17	必修	No Mar	de vin		担当教員	米女 博司
	臨床柔道整復学V	必修 選択	必修	年次	a	実務経験	0
12/	Clinical judo Therapy V	授業	585 DO	総時間	20	開講区分	後期前半
コース	共通	形態	講義	(単位)	1	曜日·時限	月曜1.2.4限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

手・足の外傷(骨折・脱臼・軟部組織損傷)について、それぞれの外傷の理論を学習することで、個々の外傷を理解する。 国家試験合格レベルの知識を習得する。 ※実務経験:日本柔道整復専門学校附属接骨院勤務(1987年~1994年) 新ゆり整形外科非常勤で勤務 よねめ接骨院(1994年~2004年)

【到達目標】

各外傷の現象や状況について、原理や法則に基づき、道筋を立てて考えることが出来るようになる。 各外傷に対し、国家試験合格レベルの知識を習得する。

	授業計画・内容
101	手の骨折 (手根骨骨折・中手骨骨折)
2回目	手の骨折(中手骨骨折・指骨骨折)2
3回目	手の脱臼(遠位橈尺関節脱臼・橈骨手根関節脱臼・月状骨脱臼・CM脱臼)
4回目	手の脱臼(MP脱臼・PIP脱臼・DIP脱臼)、手の軟部組織損傷(TFCC・ドケルバン・末梢神経損傷)
5回目	手の軟部組織損傷(キーンベック・マーデリング変形・靭帯損傷・その他指の変形)
6回目	足の骨折(足根骨骨折・中足骨骨折・足の指骨骨折)
7回目	足の骨折2 足の脱臼(ショパール関節脱臼・リスフラン関節脱臼・中足指節関節脱臼・指節間関節脱臼)
808	足の軟部組織損傷(足関節捻挫とその類焼鑑別)
9回目	足の軟部組織損傷(中足部から後足部の有痛性疾患・前足部の有痛性疾患)2
10回目	定期試験
準備学習 時間外学習	授業前後に復習をしてください。
評価方法	定期試験100%
受講生への メッセージ	局所解剖をベースに柔道整復学理論編を考える 各部位にどのような外力が加わり、どのような外傷を招くかをイメージして考える。
	書・教材・参考書]

学 科: 柔道整復科

-2000000	柔道整復術適応の臨床的判定	必修	27.84	de vie	2	担当教員	内田 雅人
科目名(英)	乗退整復構進応の臨床的刊定	選択	必修	年次	3	実務経験	0
	Clinical Decision for Adapting Judo Therapy Treatment	授業		総時間	40	開講区分	後期
コース	共通	形態	講義	(単位)	2	曜日·時限	

【侵業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

条道整復師の法制度的業務範囲の整理として条道整復師法と受領委任取扱規定(健康保険施術)の係る法制度的な適応を理解し、医療における柔道整復師の位置づけを学び、臨床へ活かす。 実務経験:整骨院・鍼灸院12年勤務

施術の適応と医用画像の理解(教科書)柔道整復学理論6版

【到達目標】

医学的適応を理解し、柔道整復施術所での施術が妥当な外傷であるか否かの判断を身に着け、内科的疾患等を鑑別し、患者利益を損なうことのない知識を習得 する。

	授業計圖·內容	
1回目	柔道整復術の適否を理解する	
2回目	損傷に類似した症状を示す疾患について理解する	
3回目	血流障害を伴う損傷を理解する	
4回目	末梢神経損傷を伴う損傷を理解する	
5回目	脱臼骨折について理解する	
608	外出血を伴う損傷を理解する	
708	病的骨折及び脱臼について理解する	
808	意識障害を伴う損傷について理解する	
908	脊髄症状のある損傷について理解する	
10回目	呼吸運動障害を伴う損傷について理解する	
11回目	内臓損傷の合併が疑われる損傷について理解する	
12回目	高エネルギー外傷について理解する	
13回目	医用画像の理解①(X線)	
14回目	医用画像の理解②(CT)	
15回目	医用画像の理解③(MRI)	
16回目	医用画像の理解④(超音波)	
17回目	医用画像の理解⑤(超音波)	
18回日	総復習	
19回目	本講義の範囲を説明できる	
20回目	後期定期試験・解答解説	
準備学習 時間外学習	解剖学と柔道整復学の予習復習が必要	
評価方法	定期試験100%	
と講生への メッセージ	鑑別診断は柔道整復師にとって、とでも重要な知識とスキルになります。卒後、即戦力となれるようしっかりと受講して下さい。	
[使用数粒	書・数材・参考書】	

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	柔道整復実技 Ⅵ	必修	71 ME	年次	2	担当教員	内村 陽一
	朱坦登後美技 VI	選択	必修	4次	3	実務経験	0
127	Adovanceed Judo Thherapeutic Lab VI	授業	* ++	総時間	30	開講区分	前期
コース	共通	形態	実技	(単位)	1	曜日·時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 外部臨床実習に出る際に必要な実践的知識や技術の復習を実施し、臨床実習前試験を行う。 実務経験: 田口整骨院にて2年9か月その後うちむら接骨院を開業4年経過

【到達目標】

柔道整復師として必要な保険の仕組みや施術の流れを実践できる。 臨床現場において対応できる能力を身につけ、該当症状に対して適切な処置法を行う事ができるようになる。

	授業計画•內容	
108	医療面接(オープン・クローズドクエッション、基本的傾聴、共感的態度)を説明し実践できるようになる	
2回目	医療面接(位置感・距離感、メラビアンの法則)を説明し実践できるようになる	
3回目	業務上の危機管理(リスクマネジメント、ヒヤリハット、医療事故と医療過誤)を説明できるようになる	
4回目	業務上の危機管理(施術録、個人情報、インフォームドコンセント)を説明できるようになる	
5回目	ランドマーク・身体計測についてを説明し実践できるようになる	
6回目	関節可動域(ROM)測定についてを説明し実践できるようになる	
7回目	社会保障各種保険についてを説明できるようになる	
8回目	包帯固定学①を説明し実践できるようになる	
9回目	包帯固定学②を説明し実践できるようになる	
10回目	テービングを説明し実践できるようになる	
1108	ストレッチを説明し実践できるようになる	
12回目	外傷について①を説明し実践できるようになる	
13回目	外傷について②を説明し実践できるようになる	
1408	外傷について③を説明し実践できるようになる	
15回目	実技試験	
準備学習 時間外学習	解剖学、柔道整復理論、柔道整復実技、包帯固定学の予習復習	
評価方法	定期試験100%	
受講生への メッセージ	臨床実習に必要な学習をします。欠席をしないようにして下さい。	
【使用教科	書・教材・参考書】	

学 科: 柔道整復科

	臨床実習	必修選択	JV ME	年次	2	担当教員	内村 陽一
科目名 (英)	臨床天育	選択	必修	平次	3	実務経験	0
	Clinical Practice	授業	55-80	総時間	19.5	開講区分	通年
コース	共通	形態	実習	(単位)	1	曜日·時限	金1, 2, 4限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

※実務経験:7年

体験型臨床実習に備えて、実際の臨床と同様の「医療面接(主訴及び現状歴・既往歴・家族歴・社会歴聴取)から始まり、検査等を行い、疾患を特定する」ロー ルプレイおよびシミュレーションを行い、実践力を身につける 施術録の説明・検査所見記載の実施。主要関節のROM測定、筋力測定、徒手検査、反射検査、運動機能検査の実施

※15回後に外部臨床実習にて44時間実施(見学型24時間・体験型20時間)

【到達目標】

- 主訴及び現状歴を把握することができる。既往歴・家族歴・社会歴を聴取することができる。施術録の説明・検査所見記載ができる。主要関節のROM測定、筋力測定、徒手検査、反射検査、運動機能検査、の理解と読解ができる
 ① 患者に対する接遇方法を身につける。
 ② 医療面接(問診)の手順を学び、患者の訴えを的確に把握できるようになる。
 ③ 検査・測定法の目的と手順を理解し、疑われる疾患・傷病に応じた検査等を実践できるようになる。

- ④ 検査等の結果を記録する事ができるようになる。

	授業計画・内容
108	外部実習に臨む心得(身嗜み・挨拶・言葉遣い)、症例報告に向けての概説
208	患者に対する接遇方法、患者の誘導・施術室清潔保持の重要性・守秘義務について説明ができる
3回目	医療面接の基本 (医療面接の目的、面接項目、質問法等)
4回目	医療面接の実践(面接結果の評価と記録、結果の記載方法)
5回目	腱板損傷(医療面接ができる(医療面接~評価までのロールプレイ))
6回目	腱板損傷(医療面接ができる(医療面接~評価までのロールプレイ))
7回目	鎖骨骨折の評価(医療面接ができる(医療面接~評価までのロールプレイ))
801	鎮骨骨折の評価(医療面接ができる(医療面接~評価までのロールプレイ))
9回目	ハムストリングス肉離れの評価(医療面接ができる(医療面接~評価までのロールプレイ))
10回目	ハムストリングス肉離れの評価(医療面接ができる(医療面接~評価までのロールプレイ))
1108	ACLの評価(医療面接ができる(医療面接~評価までのロールプレイ))
12回目	ACLの評価(医療面接ができる(医療面接~評価までのロールプレイ))
13回目	振り返りと総復習
14回目	臨床実習前施術試験(osce)
15回目	臨床実習前拖衛試験(osce)
16回目	臨床実習前施術試験(osce)振り返り 再試験(osce)週
準備学習 時間外学習	臨床実習は卒後に柔道整復師を業とするには重要な事を総括した学習となります。患者との向き合い方から施術技術まで多岐に渡るため基本的 な解剖生理学、一般臨床医学、柔道整復学を自宅学習でインプットして学内でアウトプットの練習、学外実習で経験したことを持ち帰り、自身の知 識と技術の軌道修正を行ってください。
評価方法	臨床実習ガイドラインに則る
C 346 TT . 103	卒後働く上で最も重要な事は『患者(クライエント)のニーズに応えること』になります。柔道整復師の業は多岐に渡る為、まずは基礎学習の習慣をつけて傾聴、アドバイスが出来るような、患者に寄り添う柔道整復師であってください。 実習着および整容は、常に清潔に保ち衛生面に留意すること。 必ずノートを持参すること。効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。
メッセージ	

解剖学·運動学·柔道整復理論·配布資料

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	テーピング	必修	78240	年次	- 54	担当教員	伊集院 英知
	ナーヒング	必修 選択	選択	平次		実務経験	0
	Taping	授業	20 200	総時間	80	開講区分	通年
	薬整スポーツ	粉態	漢習	(単位)	4	曜日·時限	木曜日 4限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

テーピングの取り扱い方、管理方法、テーピング使用時に関しての考え方、外傷に対するテーピング及び競技現場のコンディショニングの手法として多様されているスポーツテーピングの手法についても学びます。 実務経験: 整骨院勤務10年

【到達目標】

色々なテープ(伸縮、非伸縮)の特性を上手く利用したテーピングが行えるようになりコンディショニングに応じたテーピング法の選択が実践できるようになる

	授業計画・内容
100	テービングの基礎理論について理解できる
2回目	テービングの基本的用語と巻き方について理解できる
3回目	足関節の構造 足関節テービングとアンダーラップが実践できる
408	足関節内返捻控について 足関節ヒールロックテーピングがが実践できる
5回日	足関節フィギュアエイトテーピング、クローズドバスケットウィーブテーピングが実践できる
6回目	ドレイクメソッドテーピングが実践できる
7回目	サッカースタイルテーピングが実践できる
8 0 B	足関節底屈背屈制限テービングが実践できる
9000	ストラッピング&ラッピングテーピングが実践できる
10回目	試験
11回目	ふくらはぎの鶏みについてについて理解できる
12回目	アキレス鍵とふくらはぎのテービングについて実践できる
13回目	シンスプリントとは シンスプリントに対するテーピングが実践できる
14回目	足のつりのメカニズムについて理解できる
15回目	ハムストリングの肉離れに対するテーピングについて実践できる
16回目	足底筋融膜炎についてについて理解できる
17回目	足のアーチと痛みについて理解し、アーチのテーピングが実践できる
18回目	踵のテーピングが実践できる
19回日	外反母趾のテービングが実践できる
20回目	学期末試験

2101	膝の構造について理解し、ジャンパーズニー、オスグッドシュラッターのテービングが実践できる
22回目	内側側副靱帯損傷を理解しテービングが実践できる
23回目	前十字靭帯と後十字靭帯のテービングが実践できる
24回目	外側側副靭帯のテービングが実践できる
25@ 🗐	肩の構造について理解し、肩鎖関節に対するテーピングが実践できる
26回日	肩関節前方脱臼のテービングが実践できる
27回目	原因不明の頚から背中の痛みについて理解できる
28回目	頚のテービングが実践できる
29回日	肩関節周囲炎について理解し、四十肩に対するテーピングが実践できる
30回目	試験
31回目	肘の構造について理解し、肘関節内側側副靭帯のテーピングが実践できる
32回目	テニス肘と野球肘のテービングが実践できる
33回目	肘関節過伸展防止のテービングが実践できる
34回目	手の構造について理解し、手関節と母指MP関節屈曲制限のテービングが実践できる1
35回目	母指MP関節屈曲制限のテービングが実践できる2 母指MP関節伸展制限テービングが実践できる
3608	母指MP関節尺側部と中指MP関節伸展制限のテーピングが実践できる
37回目	PIP関節のテービングが実践できる
38回目	腰の構造、腰痛のメカニズムを理解し、腰部のテービングが実践できる
3901	殷陽節の構造につい理解し、殷陽節のテービングを実践できる
40回目	試験
準備学習 時間外学習	人体の筋肉や骨格を解剖学的にイメージする事ができ外傷の状態をしっかり把握する事で巻き進む方向と強さを見極める。
評価方法	実技試験(100点満点)
受講生への メッセージ	少しでも多くの人の体を触り何回もテーピングを繰り返す事が素早く綺麗に巻ける近道だと思います。一緒にたくさん模智しましょう!
【使用教科	書・教材・参考書】

学 科: 柔道整復科

	ケア&コンディショニング	必修	選択	年次	- 4	担当教員	谷口 貴隆
科目名 (英)	778127123-29	選択	75 22	400		実務経験	0
	Care & Conditioning	授業	20.83	総時間	80	開講区分	通年
コース	柔整スポーツ	形態	漢智	(単位)	4	曜日·時限	木曜日2限

【授業の学習内容】(※実務経験のある軟員、知見を有する軟員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

コンディショニングとは運動競技において最高の能力を発揮できるように精神面・肉体面・健康面などから状態を整えることをいいます。ケア・コンディショニングでは主に筋肉(身体)に対してストレッチング法やエクササイズ法を学びます。疲労軽減やスポーツ傷害の予防・改善、競技パフォーマンスの向上を目的とした実技習得を目指します。また、スポーツ選手に対して指導ができるような授業を実施します。

実務経験:2005年から佐賀北高校サッカー部のフィジカルコーチ 小学生~高校生を中心にトレーニング指導をして21年

ストレッチング法やエクササイズ法を学び、実技を習得する 自分でケアをどのようにしたらよいか考えられるようになる (具体的目標) 目標① 静的ストレッチングや動的ストレッチング、ベアストレッチングを部位別に正しくできる 目標② 体幹エクササイズを部位別、目的別に正しくできる 目標③ 目標①②を実践しながら、指導ができる

	授業計画·内容				
108	ケアコンディショニングについて				
2回目	動的ストレッチング(胸部、背部、肩部)について実践できる				
3回目	動的ストレッチング(大腿部、下腿部)について実践できる				
4回目	静的ストレッチング(胸部、背部、肩部)について実践できる				
5回目	静的ストレッチング(大腿部、下腿部)について実践できる				
6回目	静的体幹エクササイズについて実践できる①				
7回目	静的体幹エクササイズについて実践できる②				
8 0 B	静的体幹エクササイズについて実践できる③				
9008	静的体幹エクササイズについて実践できる④				
10回目	中間試験および振り返り				
1108	動的体幹エクササイズについて実践できる ①				
1200	動的体幹エクササイズについて実践できる ②				
13回目	動的体幹エクササイズについて実践できる ③				
14回目	動的体幹エクササイズについて実践できる ④				
15回目	ペアストレッチング(胸部、肩部)について実践できる				
16回目	ペアストレッチング(上背部、腰背部)について実践できる				
17回目	ペアストレッチング(大腿部前面)について実践できる				
18回目	ペアストレッチング(大腿部後面、下腿部)について実践できる				
19回目	ペアストレッチング(全身)について実践できる				
20回日	前期試験				

21回目	前期の振り返り 総復習
22回目	上肢帯と上肢のアライメントについて理解できる
23回目	肩甲骨に対するエクササイズを理解して実践できる
24回目	大胸筋、広背筋に対するエクササイズを理解して実践できる
25回目	肩関節に対するエクササイズを理解して実践できる
26回目	肘関節、手関節に対するエクササイズを理解して実践できる
27回目	骨盤帯と下肢のアライメントについて理解できる
28回日	骨盤帯に対するエクササイズを理解して実践できる①
29回目	骨盤帯に対するエクササイズを理解して実践できる②
30回目	中間試験および振り返り
31回目	膝関節に対するエクササイズを理解して実践できる
32回目	足関節に対するエクササイズを理解して実践できる
33回目	高齢者に対するトレーニングについて理解して指導できる
34回目	子ども・女性に対するトレーニングについて理解して指導できる
35回目	障がい者に対するトレーニングについて理解して指導できる
36回目	生活習慣病に対するトレーニングプログラムを理解できる①
37回目	生活習慣病に対するトレーニングプログラムを理解できる②
38@ 🗎	アスレティックリハビリテーションについて理解できる
39@ 目	総復習と試験対策
40回目	後期定期試験
準備学習 時間外学 習	自分自身でストレッチングやエクササイズを実践、習慣化することで、体の使い方や使用感、疲労感などを体感することができます。 運動を生活に取り入れることでより健康的、積極的になることができます。施術を効率よく行なうには自主練習が必要になります。
評価方法	中間試験 (30%) 期末定期試験 (60%) 授業の取り組み (10%) 合計 (100%)
受講生へ のメッセー ジ	コンディショニングの理解を深めることで、トレーニング指導者としての幅が広がると思います。積極的に体を動かして楽しい授業を 緒に築いていきましょう!!
W001 -=1	書・教材・参考書》 ング指導者テキスト 実技編』

学 科: 柔道整復科

	mi ee ah re r	必修	選択	drive	- 12	担当教員	井手 宏法
科目名 (英)	手技療法 I	必修 選択	地外	年次	- 2	実務経験	0
1367	Manual Therapy I	授業	90 TIT	総時間	40	嗣講区分	前期
コース	柔スポ	和鄉	演習	(単位)	2	曜日·時限	水曜日·2時限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

主に自身が現場で活用しているスポーツマッサージ・ストレッチングの手技を中心に実技を行い、安全に身体への施術を行える徒手技術を修得する。また、機能解剖学に基づいた筋肉へのアプローチを通して、様々な身体や筋肉に触れることに慣れていく。 実務経験:平成21年よりスポーツトレーナーとして約8年地域の方への指導を行う。

【到達目標】

- ・身体の構造を理解しスポーツマッサージやストレッチングの手技とをリンクさせる・基本的なスポーツマッサージの手技が実践できる・正しく安全に、決められた時間内で実践できる

ション/手技療法の概要 (サージが実践できる(伏臥位: 肩/腕/手) (サージが実践できる(伏臥位: 背中/腰) (サージが実践できる(伏臥位: 下肢) (サージが実践できる(仰臥位: 頭頭部) (サージが実践できる(仰臥位: 胸部/腹部) (サージが実践できる(仰臥位: 胸部/腹部) (サージが実践できる(仰臥位: 股関節/腰関節/足関節牽引) (サージが実践できる(仰臥位: 下肢) (サージが実践できる(横臥位: 下肢)
サージが実践できる(伏臥位: 胃/腕/手) サージが実践できる(伏臥位: 背中/腰) サージが実践できる(伏臥位: 下肢) サージが実践できる(仰臥位: 頭頚部) サージが実践できる(仰臥位: 胸部/腹部) サージが実践できる(仰臥位: 胸部/腹部) サージが実践できる(仰臥位: 股関節/腹関節/足関節牽引) サージが実践できる(仰臥位: 下肢)
サージが実践できる(伏臥位:背中/腰) サージが実践できる(伏臥位:下肢) サージが実践できる(伊臥位:頭頭部) サージが実践できる(仰臥位:胸部/腹部) サージが実践できる(仰臥位:股関節/腰関節/足関節牽引) サージが実践できる(仰臥位:下肢)
サージが実践できる(伏臥位:下肢) ・サージが実践できる(仰臥位:頭頚部) ・サージが実践できる(仰臥位:胸部/腹部) ・サージが実践できる(仰臥位:胸部/腹部) ・サージが実践できる(仰臥位:及関節/膝関節/足関節牽引) ・サージが実践できる(仰臥位:下肢)
サージが実践できる(仰臥位:頭頚部) サージが実践できる(仰臥位:胸部/腹部) サージが実践できる(仰臥位:股関節/腰関節/足関節牽引) サージが実践できる(仰臥位:下肢)
サージが実践できる(仰臥位:胸部/腹部) サージが実践できる(仰臥位:股関節/腰関節/足関節牽引) サージが実践できる(仰臥位:下肢)
サージが実践できる(仰臥位: 股関節/膝関節/足関節牽引) サージが実践できる(仰臥位: 下肢) サージの確認と評価
サージが実践できる(仰臥位:下肢)
サージの確認と評価
Control of the Contro
サージが実践できる(横队位:上肢)
サージが実践できる(横臥位:下肢)
ジーが実践できる(足部)
ジーが実践できる(手掌部)
グの基礎理論を理解する
ストレッチングが実践できる(上肢)
トレッチングが実践できる(下肢)
枚科(特に機能解剖学)の復習 / 複習 ツサージを実践する
のパフォーマンス向上や疲労回復・傷害予防、一般の方への姿勢改善や痛みの軽減などを目的とした手段の一つに手 します。本授業を通して、身体構造への理解を深め、正しく安全に各手技療法を実践できるように努めて行きましょう。

学 科: 柔道整復科

	1 27 65 711 -5 6	必修	3040	年次	- 4	担当教員	井手 宏法
科目名 (英)	レジスタンストレーニング	選択	選択	华汉	- 15	実務経験	0
(34)	Resistance Training	授業	-0.113	総時間	40	開講区分	後期
コース	柔整スポーツ	形態	漢智	(単位)	2	曜日·時限	水曜日·2時限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

講義と実技を織り交ぜながら、レジスタンストレーニングの基礎と実践を学ぶ。 他の授業で学ぶ基礎知識(機能解剖学・生理学など)とリンクさせながら、多岐にわたる様々なレジスタンストレーニングのテクニックやプログラムデザインを理 解し、自身もトレーニングを実践する。またトレーニングを実践指導できる知識とスキルを身につける。 実務経験:平成21年よりスポーツトレーナーとして約8年地域の方への指導を行う。

【到達目標】

◎身体の使用部位とストレッチやトレーニング・エクササイズをリンクさせる◎正しいフォームで自身が実践できる◎正しく安全に指導できる

	授業計画・内容
1回目	自己紹介・柔軟性を理解する
2回目	ストレッチングと柔軟性トレーニングを理解する
3回目	ストレッチングと柔軟性トレーニングを実践する
408	ウォーミングアップとクーリングダウンを理解する
5回目	自重エクササイズとスタビリティボールエクササイズを理解し実践する①
6回目	自重エクササイズとスタビリティボールエクササイズを理解し実践する②
7回目	レジスタンストレーニングのプログラムデザインを理解する①
808	レジスタンストレーニングのプログラムデザインを理解する②
9回目	レジスタンストレーニングのエクササイズテクニックを理解する
10回目	マシントレーニングを実践する(上半身)
11回目	マシントレーニングを実践する(下半身)
12回目	フリーウエイト(コアエクササイズ: 上半身)を実践する①
13回目	フリーウエイト(コアエクササイズ: 上半身)を実践する②
14回目	フリーウエイト(コアエクササイズ:下半身)を実践する③
15回目	フリーウエイト(コアエクササイズ:下半身)を実践する④
1600	フリーウエイト(補助エクササイズ)を実践する⑤
17回目	全身トレーニング(パワークリーン)を実践する①
1808	全身トレーニング(パワークリーン)を実践する②
1908	学期末試験
20回目	振返り
準備学習 寺間外学習	©他の基礎教科(機能解剖学や生理学など)の復習 ◎授業内容の復習 ◎トレーニングを実践する
評価方法	◎テスト◎授業態度・レポート◎出席状況
と講生への メッセージ	他の授業で同時に学んでいることもこの授業を理解する上でとても重要になりますので、復習を忘れずに、日々成長する態度で授業に臨んでほ いと思います。講義と実技を織り交ぜながら進めていきたいと考えていますので、自身が動ける身体作り、トレーニングにも精進してください。一 通行にならないよう、皆さんとディスカッションができる授業にしたいと思っています。

『NSCA パーソナルトレーナーのための基礎知識(第2版)』

学 科: 柔道整復科

	of the drawn in	必修	50.40	年次	-	担当教員	久保 智之
科目名 (英)	手技療法Ⅱ	必修 選択	選択	华庆	*	実務経験	0
1367	Manual Therapy II	授業	80-DB	総時間	80	開講区分	前期、後期
コース	柔整スポーツ	授業 形態	演習	(単位)	4	曜日-時限	金曜、3時限目

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

[後来の子宮内学](朱美術家族のある教員、北見されりる教員が、とのような技术と失足りるのが、共体的に記載する/ 運動療法を科学的に理解するとともに、効果的な運動療法を実践する上で必要となる基礎知識を身に付ける。評価を通じて抽出された問題点に 対する運動療法の適応と方法を理解する。 実務経験・リハビリテーション医療の現場で20年以上理学療法士として勤務。2004年~現在まで福岡工業大学ラグビー部メディカルトレーナとして活動。主業 移は選手のコンディショニング、アスレティックリハビリテーション、試合帯周。

【到这目標】

運動療法の基礎的知識と基本的技術を習得する。 スポーツ傷害を含めた運動機能障害の評価と、適切な運動療法ができるようになる。

	授業計劃・内容
108	オリエンテーション、コンディショニングについて理解する (コンディションの構成要素、コンディショニングの方法)
2回目	運動療法について理解する (運動療法の目的、効果、種類、禁忌)
3回目	アナトミカルアダプテーションについて理解する1 (テスト、モビリティドリル)
4回目	アナトミカルアダプテーションについて理解する2 (トレーニング)
500	バランス障害に対する運動療法について理解する
608	姿勢障害に対する運動療法 について理解する
700	体幹トレーニングについて理解する1
8回目	体幹トレーニングについて理解する2
9回目	運動療法について理解する1 (ROM訓練、ストレッチ、筋膜リリース)
10回目	運動療法について理解する2(ファンクショナルトレーニング)
1100	運動療法について理解する3 (筋力訓練、PNF)
12回目	頚椎の運動機能障害に対する運動療法について理解する
13回目	胸推の運動機能障害に対する運動療法について理解する
14回目	腰椎の運動機能障害に対する運動療法について理解する
1500	肩関節の運動機能障害に対する運動療法について理解する
16回目	展関節複合体の運動機能障害に対する運動療法について理解する
17回目	計関節の運動機能障害に対する運動療法について理解する。
1808	手関節、手指の運動機能障害に対する運動療法について理解する
19回日	総復習
20回目	学期末試験

	W
21回目	股関節の運動機能障害に対する運動療法について理解する
22回目	股関節周辺の運動機能障害に対する運動療法について理解する
23回目	膝関節の運動機能障害に対する運動療法について理解する
2400	膝関節周辺の運動機能障害に対する運動療法について理解する
25回日	足関節の運動機能障害に対する運動療法について理解する
26回目	足関節周辺の運動機能障害に対する運動療法について理解する
27回目	足部の運動機能除害に対する運動療法について理解する
28回目	スポーツ傷害予防トレーニングについて理解する
29回日	膝関節スポーツ外傷の運動療法について理解する
30回目	膝関節スポーツ障害の運動療法について理解する
31回目	肉離れの運動療法について理解する
32回日	頭頚部のスポーツ傷害に対する運動療法について理解する
33@目	体幹のスポーツ傷害に対する運動療法について理解する1
34回目	体幹のスポーツ傷害に対する運動療法について理解する2
3500	上肢のスポーツ傷害に対する運動療法について理解する1
36回目	上肢のスポーツ傷害に対する運動療法について理解する2
37回目	下肢のスポーツ傷害に対する運動療法について理解する1
38回目	下肢のスポーツ傷害に対する運動療法について理解する2
39回目	総復習
40回目	定期試験、解脱
準備学習 時間外学習	①骨格筋の名称、起始・停止、機能の復習が必要。 ②骨の位置、名称、関節の構造・機能の復習が必要。 ③スポーツ傷害の原因、発生メカニズム、対処法について予習が必要。
評価方法	定期テスト(100%) 筆記
受講生への メッセージ	スポーツ分野におけるトレーナーの役割は主に4つです。傷害予防、競技パフォーマンスの向上、スポーツ現場での傷害への対応、競技復帰にけてのリハビリテーションです。結果が最も重視され、選手からの要求もシビアです。選手から信頼されるトレーナーになるためには、常に学び射け、選手のニーズに合わせたサポートを提供する準備を怠らないことが大切です。
【使用教科	書· 板材· 参考書】

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	NSCA試験対策	必修 選択	選択	年次	-	担当教員	山田 大介
	NSCALLEN R	選択	XEL D.C.	+00	-	実務経験	0
	NSCA-CPT Test preparation	授業	20.00	総時間	80	開講区分	1学期
コース	柔整スポーツ	影應	決習	(単位)	4	経日・時限	水曜日·2限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) パーソナルトレーナーに必要な基礎知識(エクササイズサイエンス、エクササイズテクニック、特別な人への運動処方、リスクマネジメントなど)を理解、習得し、 柔道整理分野とスポーツ分野の関面からアプローチできる人材を目指す。 実務経験: 2005年よりフリーランスにてプロ野球選手をはじめ、高校、大学のS&Cコーチ、多種アスリート選手のパーソナルトレーナーとして現在も活動中である。

【到達目標】

NSCA-CPT試験に合格するための学力を身につけ、NSCA-CPTの資格を取得する。

	授業計画·内容
108	(座学)オリエンテーション/協会・資格について理解する
2回目	(座学)模擬問題を解き、試験の概要を理解する
308	(座学)NSCAの用語について理解する
4回目	(産学)第12章 柔軟性、自重、スタビリティボール・エクササイズについて理解する
5 0 1	(産学)第13章 レジスタンストレーニングのエクササイズテクニックについて理解する
600	(座学)第13章 レジスタンストレーニングのエクササイズテクニックについて理解する
7回目	(座学)第14章 心臓血管系活動のテクニックについて理解する
8回目	(座学)第12-14章の確認テストを解き、復習をする
9回目	(座学)第15章 レジスタンストレーニングのプログラムデザインについて理解する
10回目	(座学)第15章 レジスタンストレーニングのプログラムデザインについて理解する
11回目	(座学)第15章 レジスタンストレーニングのプログラムデザインについて理解する
12回目	(産学)第16章 有酸素性持久カトレーニングのプログラムデザインについて理解する
13回目	(産学)第17章 プライオメトリックトレーニングとスピードトレーニングについて理解する
14回目	(産学)第15-17章の確認テストを解き、復習をする
15回目	(産学)第9章 クライアントの面談と健康評価について理解する
16回目	(座学)第10章 体力評価の選択と管理について理解する
17回目	(座学)第11章 体力テスト法と評価基準について理解する
1800	(座学)第9-11章の確認テストを解き、復習をする
19回目	(産学) 前期の複習
20回目	学期末試験

2100	(座学)第1章 筋系、神経系、骨格系の構造と機能について理解する
22回目	(座学)第2章 心肺系とガス交換について理解する
23回目	(歴学)第3章 生体エネルギー機構について理解する
24回目	(産学)第4章 バイオメカニクスについて理解する
25回日	(産学)第5章 レジスタンストレーニングへの適応について理解する
26回日	(座学)第6章 有酸素性持久カトレーニングへの生理学的な応答と適応について理解する
27回日	(座学)第7章 パーソナルトレーニングにおける栄養について理解する
28回目	(産学)第8章 パーソナルトレーナーのための運動心理学について理解する
29回目	(座学)第1-8章の確認テストを解き、復習をする
30回目	(座学)第18章 妊婦、高齢者、青年期直前のクライアントについて理解する
31回目	(座学)第19章 栄養と代謝に問題を抱えるクライアントについて理解する
32回目	(産学)第20章 心臓血管系疾患および呼吸器系疾患を有するクライアントについて理解する
33回目	(産学)第21章 整形外科的疾患や傷害を有するクライアントとリハビリテーションについて理解する
34回日	(座学)第22章 脊髄損傷、多発性硬化症、てんかん、脳性麻痺患者についてについて理解する
35回目	(産学)第23章 アスリートを対象にしたレジスタンストレーニングについて理解する
36回目	(座学)第18-23章の確認テストを解き、復習をする
37回目	(座学)第24・25章 施設と機器の配置およびメンテナンス/法的問題について理解する
38回目	年間の復習と本試験の対策
39回目	年間の復習と本試験の対策
40回目	前期試験口
準備学習 特間外学習	テキストの熟読ノトレーニングの実施ノ解剖学、生理学の復習
【使用収 4書・教材・ 参考書】	マークシート方式による試験(50間)
を講生への メッセージ	試験日に向けてテキストを熟読し、継続した勉強を行なってください。また、勉強した内容を実践的に理解するために実技(トレーニング)も行い。 しょう。
「	B·敬材·参考書]

学 科: 柔道整復科

	プログラムデザイン	必修 選択	192 +03	de vis		担当教員	谷口貴隆
科目名 (英)	プログラムナザイン	選択	選択	年次	3	実務経験	0
1227	Program Design	授業	\$ 10.70	総時間	40	開講区分	前期
コース	柔整スポーツ	形態	講義	(単位)	2	曜日·時限	金曜日2限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

- ●トレーニングの原理やエクササイズの適切な配列を理解する
 ●トレーニングの負荷を決定できるようになる
 ●腹管としてエクササイズ名、エクササイズテクニックの理解を深めるこれらのことを反復して学び、個別のトレーニングプログラムが組めるようになる
 ※実務経験フィットネスクラブに10年以上勤務。小学生から高校生までのサッカー選手の身体づくりに携る。指導歴は21年。

対象者別のトレーニングプログラムの作成、指導ができるようになる ①レジスタンストレーニング ②有酸素性持久カ ③ブライオメトリックトレーニングとスピードトレーニング

	授業計画・内容	
108	レジスタンストレーニングのブログラムデザイン①を説明し実践できるようになる	
2回目	レジスタンストレーニングのプログラムデザイン②を説明し実践できるようになる	
3回目	レジスタンストレーニングのプログラムデザイン③を説明し実践できるようになる	
4回目	レジスタンストレーニングのプログラムデザイン④を説明し実践できるようになる	
501	レジスタンストレーニングのプログラムデザイン⑤を説明し実践できるようになる	
6回目	レジスタンストレーニングのプログラムデザイン総復習	
708	有酸素性持久カトレーニングのプログラムデザイン①を説明し実践できるようになる	
8回目	有酸素性持久カトレーニングのブログラムデザイン②を説明し実践できるようになる	
908	有酸素性持久カトレーニングのプログラムデザイン③を説明し実践できるようになる	
10回目	有酸素性持久カトレーニングのプログラムデザイン④を説明し実践できるようになる	
11回目	有酸素性持久カトレーニングのプログラムデザイン総復習	
12回目	プライオメトリックトレーニングとスピードトレーニング①を説明し実践できるようになる	
13回日	プライオメトリックトレーニングとスピードトレーニング②を説明し実践できるようになる	
14回目	プライオメトリックトレーニングとスピードトレーニング③を説明し実践できるようになる	
15回目	プライオメトリックトレーニングとスピードトレーニング④を説明し実践できるようになる	
16回日	プライオメトリックトレーニングとスピードトレーニング⑤を説明し実践できるようになる	
17回目	プライオメトリックトレーニングとスピードトレーニング総復習	
18回目	総復習①	
1900	総復習②	
2008	定期試験・解答解説	
	①エクササイズの種目名とエクササイズテクニックの理解度を上げる ②自分自身でトレーニングを実施して、体の使い方や反応を知る	
評価方法	定期試験100%	
を講生への メッセージ	エクササイズの種目名や種類、エクササイズテクニックを覚えて、個別のトレーニングブログラムが組めるようになりましょう。	
【使用数料	書・敎材・参考書]	

・『NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識』

学 科: 柔道整復科

	4 0 mm/m = 2 ms 36	必修選択	21.149	年次		担当教員 矢島孔明(科目責任者)久住虞理
科目名(英)	セルフプロモーション論	選択	必修	44		実務経験
1007	Self-promotion Theory	授業	誘發	総時間	30	開講区分
コース	共通	彩脑	575.794	(単位)	2	曜日·時限

[授業の学習内容] (※実務経験のある数員、知見を有する数員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

本科日では、心身健康科学/人間総合科学の視点から、人間の脳やホルモンの働き、心とからだの相関性などを手がかりに、信頼関係の構築、ストレスへの対処、免疫力の向上などについて科学的に読み解いていきます。そして 設階的に、共生社会で自分らしく生き生きと生きるためのスキルの形成を図ります。学修を進めるうちに、視点が変わり、考え方も変わり、また別の考え方が生まれるでしよう。この自分自身の変化が、本科目で言う「よりよく生きるための知恵Knowledge for Weli—Being)」の創造造につながります。絶えず変化(成長)していることを学修者自身が自覚しながら、スキルの主体的な社会生活への活用を目指します。

【到達自標】

1.「よりよく生きる」とはどのようなことなのかを語ることができる。 2.自立と共生のための人間理解に必要なことを述べることができる。 3.自身の考え方がどのように変化したかを内観し表現することができる。 4.得た矢日跪をもとに、自身の人生における「よりよく生きるための知恵(Knowledge for Well Being)」を総合的に探究し、社会生活に活用することができる。

	授業計画・内容
1回目	第1章 できると信じて、一歩を踏み出す
2回目	第1章 人生の変化の受け入れについて
3回目	第1章 人生の変化に対する脳のメカニズムについて
40 8	第2章 他人と助け合って生きる
5回目	第2章 本能・理性などの脳部位の調和について
601	第2章 「共感脳」の仕組みと働きについて
7回目	第3章 新たな自分を育てる
800	第3章 共感脳を育む働きがあるホルモン、オキントシンについて
9回目	第3章 科学的な視点から「足るを知る」ことの価値について
10回目	第4章 心と体のメカニズムを知る
1108	第4章 自律神経・ホルモンについて
12回目	第4章 自然治癒力について
13回目	第5章 いのちをより良く生きる
14回目	第5章 なぜ人は学ぶことが必要なのか
15回目	第5章 より良く生きるための知恵について
1600	第5章 自己教育力について
17回目	ライフ・プロモーションについて
18回目	自立と共生について
19回日	総復習
20回目	学期末試験
	「よりよく生きるための知恵」として、心身が極めて精緻な仕組みを持ち、絶妙なパランスを保ちながら健康やいのちを支えていることを 理解しましょう。自分自身の人生と重ね合わせて探求することが大切です。
評価方法	定期試験
受講生への メッセージ	テキスト「運命を変える心とからだの磨き方」を通読して、感じ取られた内容を自己の考えや経験に当てはめながら、そこにある人間の 本質を考えてみましょう。「ヒューマン」や「心身健康科学」の教科書とつながりのある事項も多いです。照らし合わせて、あなた自身の 「よりよく生きる」知恵として書き出してみましょう。感じ考えたことをUHAS@myキャンパスを使用して教員に伝えたり、身近なヒトに話したりしてみましょう。
【使用教科	書・飲材・参考書】

学 科: 柔道整復科

		必修選択	AV MIT	年次	- 0	担当教員	小岩信義
科目名 (英)	コミュニケーション入門	選択	必修	并次	,	実務経験	
100	Intereduction to Comunication	授業	18 6%	総時間	30	開講区分	前期
コース	共通	形態	19/105	(単位)	2	曜日·時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

具体的事例を通して、コミュニケーションの実践につながる理論と、医療・福祉の現場における患者対応や指導、職場の人間関係、職種間の連携 構築に必要となる人間理解の基礎を学ぶ。また、自己と他者、そして相互の理解を深めるテクニックとコミュニケーション方法の学習を通して、医 療従事者 に必要となるコミュニケーションの基礎力を修得する。

【到達自標】

1.自己と他者、そして相互の理解に必要となるコミュニケーションの基礎技法について説明できる。 2.人間関係から生じる破晴やストレスのイ士組みと、対処に必要な技法を説明できる。 3.安定した人間関係の形成要因とこれに必要となる視点、技法について説明できる。 4.自己成長の観点からコミュニケーションカの重要性を説明できる。

	授業計画·内容
100	ガイダンス
2回目	第1章: 視点をかえれば人間関係が変わる
3回目	第1章:職場の人間関係について
4回目	第1章:自己の感情発現の仕組みとコントロールの方法について
5回目	第1章:職場の上司や同僚の行動に対しての技法
6回目	第2章: 過度な期待がいらだちを生む
7回目	第2章: 否定的な感情を生む仕組みについて
800 🗎	第2章:事例検討
9回目	第2章:傾聴、チャンクダウン、承認、共感的理解について
10回目	第3章: 相手を知ればストレスが滅る
11回目	第3章:ストレスが生じる場面について
1200	第3章:人間関係・信頼関係について
13回目	第3章:相互理解と協調関係の形成について
14回目	第3章:質問方法やフィードパックの方法等について
15回目	第4章:自分の中の勇気を呼び覚ます
16回目	第4章・他者と良好なコミュニケーションの歌り方について
17回日	第4章:ソーシャルネットワークの作り方や自分自身の中で生じる様々なストレスとの向き合い方について
18回日	第4章:自己成長・人間関係カやコミュ三ケーションカを修得する方法について
1911	総復習
20回日	学期末試験
準備学習 特間外学習	テキストの巻未(第4章末尾)に参考図書をリストアップしているので、学習の進展に応じて参考にすること。
評価方法	定期試験
満生への ペッセージ	本科目で学修していただ内容は、受講生のみなさんの家庭、学校、職場等の社会生活の中で活かしていただける内容となつておりますので、実践をとおして得た感想や質問などを担当する教員に届けていただき、コーチング・マインドの理解促進を受講生のみなさんとともに深めたいと考えています。
【使用教科	書-敬材·参秀書]

医療・福祉現場のコミュニケーション(三輪書店

学 科: 柔道整復科

	also and the same of the other	必修	At Add	an she	- 12	担当教員	鈴木はる江
科目名 (英)	生活習慣と健康	選択	必修	年次	105	実務経験	
120	Lifestyle and Health	授業	送佐	総時間	30	開講区分	前期
3-Z	共通	超越	24 8X	(単位)	2	曜日·時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

健康的な生活習慣の重要性に対する関心と理解について自身の生活を振り返るとともに、社会との関係性を再認識する

【到達目標】

心身の健康を維持するために、日ごろの生活習慣が重要であることを理解し、自身の生活改善に活用する。

	授業計画・内容
1回目	第1章 生活習慣病の特徴①
2回目	第1章 生活習慣病の特徴②
308	第2章 主な生活習慣病①
4回目	第2章 主な生活習慣病②
5回目	第2章 主な生活習慣病③
608	第3章 歯の健康①
7回目	第3章 歯の健康②
801	第4章 がんと生活習慣①
9回目	第4章 がんと生活習慣②
10回目	第5章 肥満:栄養と運動①
11回目	第5章 肥満:栄養と運動②
12回目	第6章 メタボリックシンドローム①
13回目	第6章 メタボリックシンドローム②
14回日	第7章 飲酒習慣と健康①
15回目	第7章 飲酒習慣と健康②
16回目	第8章 喫煙習慣①
17回目	第8章 喫煙習慣②
18回日	第9章 生活習慣病対策
19回目	健康日本21について
20回目	学期末試験
华儒学習 特問外学習	マイキャンパスの「質問箱」へ寄せられた質問へ、1週間以内に返答するようにします。
評価方法	定期試験
と講生への メッセージ	テキストの重要ポイントを理解し、自分自身の生活改善にどのように応用できるか考察する。
【使用教科	書·教材·参考書】

学 科: 柔道整復科

	DO NOT THE PARTY.	必修	N 45	er vi.	24	担当教員	ILC
科目名(英)	医療英語	選択	必修	年次	97	実務経験	
·×/	Medical English	授業	講報	総時間	40	開講区分	後期
コース	共通	用多数	NA AX	(単位)	2	曜日·時限	

【提案の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

柔道整復師は日本国内の伝統的な資格であるが、現在はグローバルに活躍できる場がある。そこで柔道整復師としてまたは医療人として英語を 発信する能力を身につけ、グローバルに活躍できる柔道整復師になってもらうために実施する

【到读日结

- ①英語による英語でのコミュニケーションがとれる。②自分で自己紹介、自分の考えを相手に伝えることができる。
- 授業計画·内容 イントロダクション 1回目 受付に関わる医療英語について理解できる 2回目 3回目 受付に関わる医療英語について理解できる(2) 受付に関わる医療英語について理解できる(3) 4回日 絵察に関わる医療英語について理解できる 5回目 診察に関わる医療英語について理解できる 問診① 6回日 診察に関わる医療英語について理解できる 問診線② 7回日 8回日 診察に関わる医療英語について理解できる 問診線③ 診察に関わる医療英語について理解できる 視診線(1) 診察に関わる医療英語について理解できる 視診縄② 10回日 診察に関わる医療英語について理解できる 触診編(①) 診察に関わる医療英語について理解できる 触診鏡(2) 12回目 絵客に関わる原産革活について理解できる 独談編(3) 13回自 診察に関わる医療英語について理解できる 超音波機器 14回目 診察に関わる医療英語について理解できる 診断 15回日 診察に関わる医療英語について理解できる 施術① 16回日 17回日 診察に関わる医療英語について理解できる 施術② 18回日 診察に関わる医療英語について理解できる 会計① 診察に関わる医療英語について理解できる 会計② 20回日 学期末試験 (目標(「))この授業を受けるには、可能であれば事前にテキストに目を通し、分からない単語や表現があれば調べておくことが望まし (目標②)この授業を受けた後は、必ずまたテキストに目を通し、復習をしてくことが望ましい。動画が見れる場合は動画も視聴しておく 準備学習 時間外学習 時間外学習は①と②及び、将来外国人と接する際、必要なフレーズを使用してコミュニケーションが取れることを想定しておくことが望 ましい。 定期試験にて知識・技能の到達評価を行う。 評価方法 ●定期試験(100%) 上記にて成績評価を行う。 この授業では、基本的な日常英会話を自信を持って実践できるよう様々なアプローチから構成されたテキストを基にして学習していきます。最初に交わす挨拶から好きな音楽のジャンルを質問したり兄弟がいるかどうか、または日常のことについて質問したりと日頃友人と交わす日本語の内容と変わらない基本的なレベルの会話を英語に置き換えて練習していきます。きっと自信を持って日常英会話をすることができるようになると思います。この授業においては、ペアワークやワークシートなどに関しては進んで取り組むことが望ま しいです。 【使用教科書·教材·参考書】 医療英語コミュニケーションテキスト

学 科: 柔道整復科

科目名(英)	保健体育	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	仲田直樹/坂本道人
	Health and Physical Education	授業	NO 1977	総時間	90	開講区分	通年
コース	共通	形態	演習	(単位)	6	曜日·時限	月曜1.2限, 火曜4限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

柔道の歴史(創始者, 創始年), 理念、教育的効果(礼・精神・道徳・品格), 嘉納治五郎師範の考え・言葉(精力善用・自他共栄)・遺訓について学習する. また, 道場の清掃、礼法, 受身については毎授業行う. また前期後半より. 認定実技審査合格の為に必要な初段相応の実力を身に着ける為、形・受身・乱取・身嗜等の基本的動作を習得する。

【到達目標】

- ①柔道衣、帯を正しく着る(結ぶ)ことができる ②柔道の礼法を身につける ③受身の重要性を理解する ④形の理合いを理解し、相手を投げることができる

His	投業計画·内容	
1回目	オリエンテーション	
2回目	後受身、横受身、前受身が実践できる	
3回目	柔道衣の着方、礼法が実践できる	
4回目	前回受身(膝つき)の実践	
5回目	前回受身(膝つき)の実践	
6回目	前回受身(膝つき)の実践	
7回目	前回受身(膝つき)の実践	
8回目	前回受身(膝つき)の実践	
9回目	試験前練習	
10回目	中間試験	
11回目	投の形の礼法・手技(浮落)が実践できる	
12回目	手技(背負投)が実践できる	
13回目	手技(肩車)がが実践できる	
14回目	手技(浮落・背負投)が実践できる	
15回目	手技(肩車)が実践できる	
16回目	手技復習	
17回目	手技復習	
18回目	手技復習	
1908	試験前練習	

学期末試験 ドリエンテーション 要技 (浮腰) の足運びが実践できる 要技 (浮腰) の投げるまでが実践できる 要技 (払腰) の足運びが実践できる 要技 (払腰) の投げるまでの動作を実践できる 要技 (釣込腰) の足運びが実践できる
要技(浮腰)の足運びが実践できる 要技(浮腰)の投げるまでが実践できる 要技(払腰)の足運びが実践できる 要技(払腰)の投げるまでの動作を実践できる 要技(釣込腰)の足運びが実践できる
要技(浮腰)の投げるまでが実践できる 要技(払腰)の足運びが実践できる 要技(払腰)の投げるまでの動作を実践できる 要技(釣込腰)の足運びが実践できる
要技(払腰)の足運びが実践できる 要技(払腰)の投げるまでの動作を実践できる 要技(釣込腰)の足運びが実践できる
要技(払腰)の投げるまでの動作を実践できる 要技(釣込腰)の足運びが実践できる
要技(釣込腰)の足運びが実践できる
要技(釣込腰)の投げるまでの動作を実践できる
試験の説明、総復習①
念復習②
已期試験
社技(送足払)足運びが実践できる
E技(送足払)投げるまでの動作が実践できる
E技(支釣込足)足運びが実践できる
E技(支約込足)投げるまでの動作が実践できる
E技(内股)足運びが実践できる
足技(内股)投げるまでの動作が実践できる
試験の説明、総復習①
党復習②
2復習③
已期試験
寺別請義
寺別講義
寺別講義
寺別講義
寺別講義
受業内では十分な反復練習の時間が無いので週に1度は柔道場にて復習練習に取り組むことが望ましい
出席、中間試験、定期試験にて評価する。
年生の柔道の授業では身嗜み、礼法などの基本動作をしっかりと身につけ、他の授業実技・産学にも活かしてほしい。また形や立技などでは、技 D理合い、受身の重要性をしっかりと理解し、授業に臨んでほしい。 年生の認定実技審査合格に向けて必要な技術・知識を体得してもらう。
・教材・参考書】
一足一足一足一足一式一丝一丝一足一等一等一等一等

学 科: 柔道整復科

	職業倫理	必修	2.45	de sus		担当教員	平野 裕子
科目名(英)	麻柔簡理	必修 選択	必修	年次		実務経験	
124	Professional Ethics	授業	in m	総時間	20	開講区分	前期前半
3-2	共通	彩館	請義	(単位)	1	曜日·時限	月曜1・2・3限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

医療専門職として柔道整復師が学ぶべき職業上の倫理、患者の権利とインフォームド・コンセント、個人情報の保護、望ましい接週の実践、そして 適切な施術料の請求の意義を理解するための医療保険制度を含む各社会保障制度について理解し、専門職としてのリテラシーを涵養する。

【到達目標】

条道整復師の業務や専門職としての責務について、現代日本における少子高齢化や医療技術の発達、患者の自己決定権の拡大等社会の変化に対する理解を通して、倫理的な思考を涵養する。

	授業計画·内容
108	柔道整復師とは(1)専門職としての柔整師の責務について説明できる(テキスト3A・3C)
2回目	柔道整復師とは(2)他職種との連携について説明できる(テキスト3A)
3回目	柔道整復師とは(3)患者との接し方の理論について説明できる(テキスト3A・2B)
408	柔道整復師とは(4)インフォームド・コンセントと患者の権利について説明できる(テキスト3B)
508	柔道整復師とは(5)患者との接し方の良しあしについて説明できる(テキスト3E)
608	柔道整復師とは(6)個人情報の保護・リスクマネジメントについて説明できる(テキスト3E)
7回目	社会保障制度(1)社会保障の機能について説明できる(テキスト1A)
808	社会保障制度(2)医療保険制度・介護保険制度について説明できる(テキスト1B・1C)
908	社会保障制度(3)診療報酬点数・柔道整復療養費について説明できる(テキスト1C・2A・2B)
10回目	最終テスト・解説
準備学習 時間外学習	各授業前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。
評価方法	評価は、最終テストの結果によって行うが、最終テストの受験要件は、全10コマのうち2/3の出席をしたものに限る。
	条道整復師は、地域社会の人々の健康に貢献できる、素晴らしい職業です。一方、柔道整復師を取り巻く環境は年々厳しくなっています。専門助 としての倫理(社会的なルール)を守り、「生き残れる柔整師」になるために、みなさんと共に考えていきたいと思います。
【使用教科	書・教材・参考書】

全国柔道整復学校協会監修、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理、医歯薬出版、2023

学 科: 柔道整復科

	桑道 I	必修 選択 投業	必修 演習	年次 総時間 (単位)	2 30 1	担当教員	木寺修作
科目名 (英)						実務経験	
	Judo I					開講区分	後期·後半
コース	共通	形態				曜日·時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

条道実技から礼節や相手への思いやりの心を学び、人間教育の一環として実施する。 また、体の使い方を学び関節への負荷・影響など損傷原因になりうる動きを理解する。

【到達目標】

- ・認定実技審査の審査内容を理解する。 ・認定実技審査の合格基準を身につける。 ・認定実技審査に基づいた身略み・受身・形を身につける ・認定実技審査で決まっている試験時間内に審査が終わるようスムーズな動きが出来るようになる。

二沿った礼法・前回受身(認定実技試験の概要説明)ができる 二沿った礼法・前回受身(時間を測定し練習)ができる 二沿った礼法・前回受身(時間を測定し練習)ができる 二沿った礼法・前回受身(時間を測定し練習)ができる 二沿った礼法・前回受身(時間を測定し練習)ができる 二沿った礼法・前回受身(認定実技試験の採点項目練習)ができる 二沿った礼法・前回受身(認定実技試験の採点項目練習)ができる 四を理解し実践できる 徳囲を理解し実践できる
- 沿った礼法・前回受身(時間を測定し練習)ができる - 沿った礼法・前回受身(時間を測定し練習)ができる - 沿った礼法・前回受身(認定実技試験の採点項目練習)ができる - 沿った礼法・前回受身(認定実技試験の採点項目練習)ができる - 西
に沿った礼法・前回受身(時間を測定し練習)ができる に沿った礼法・前回受身(認定実技試験の探点項目練習)ができる に沿った礼法・前回受身(認定実技試験の探点項目練習)ができる 范囲を理解し実践できる
二沿った礼法・前回受身(認定実技試験の探点項目練習)ができる 二沿った礼法・前回受身(認定実技試験の探点項目練習)ができる 范囲を理解し実践できる
に沿った礼法・前回受身(認定実技試験の採点項目練習)ができる 范囲を理解し実践できる
徳囲を理解し実践できる
7. 囲を理解し実践できる
W 0.00 (1 May 1 M
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
強くなる為の授業ではありません。礼節を学び、怪我をしない動きを理解し実践する事を目標にしています。また認定実技審査合格の 変力をつける為に毎回受講するだけでなく、柔道場が解放されている日は練習に参加して下さい。
为舍】

学 科: 柔道整復科

	柔道Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	木寺 修作
科目名 (英)						実務経験	
	JUDO II	授業	演習	総時間 (単位)	60	開講区分	前期·後期前半
コース	共通	形態			2	曜日·時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 柔道の技の間合いや理合いを理解し、認定実技の審査項目に沿った礼法、受身を習得できる。

【到達目標】

- ・認定実技審査の審査内容を理解する。

- ・認定実技器査の審食内容を埋除する。
 ・認定実技器査の合格基準でもある初段相当の実力を身につける。
 ・認定実技器査に基づいた身嗜み・受身・形・立ち技を身につける
 ・認定実技器査で決まっている試験時間内に審査が終わるようスムーズな動きが出来るようになる。
 ・格闘技である事・相手が怪我をする可能性がある事をやっているという自覚を持ち、相手に対する感謝の気持ちを忘れない。
- 認定実技審査に全員合格する。

	授業計画·内容
108	2年次の復習(礼法・前回受身)について実践できる
2回目	手技の足運びについて実践できる
3回目	手技で投げる練習について実践できる
4回目	腰技の足運びについて実践できる
5回目	腰技で投げる事が実践できる
6回目	足技の足運びについて実践できる
7回目	足技で投げる事が実践できる
8回目	前回受身での時間短縮と手技が実践できる
9回目	前回受身のタイム計測と腰技が実践できる
10回目	前回受身のタイム計測と足技が実践できる
11回目	前回受身のタイム計測と手技・腰技・足技が実践できる①
12回目	前回受身のタイム計測と手技・腰技・足技が実践できる②、移動打込が実践できる
13回目	前回受身のタイム計測と手技・腰技・足技が実践できる③、移動打込、移動投込が実践できる
14回目	約束乱取について理解し、約束乱取が実践できる①
15回目	手技・腰技・足技が実践できる④、約束乱取が実践できる②
16回目	実技試験について理解し、形が実践できる
17回目	実技試験練習①
18回目	実技試験練習②
19回目	実技試験練習③
20回目	前期実技試験

【使用教科	書・教材・参考書】
受講生への メッセージ	初段相当の実力をつける為、投の形のうち手技・腰技・足技を習得し立技の練習も行います。認定実技審査の合格基準でもある為、年齢・性別に関係なく最低限の実力をつけてもらう授業内容になっています。
評価方法	実技試験・口頭試問
準備学習 時間外学習	授業で行った内容を必ず次の授業までに柔道場に来て復習する。
30回目	実技試験、口頭試問
29回目	ロ頭試問対策(受身)を理解し認定実技審査対策が実践できる
28回目	ロ頭試問対策(審判規定、礼法)を理解し認定実技審査対策が実践できる
27回目	ロ頭試問対策(柔道の歴史、理念)を理解し認定実技審査対策が実践できる
26回目	認定実技審査解説、評価を受けての振り返りをし、改善点を理解・実践できる
25回日	認定実技審査対策が実践できる②
24回目	認定実技審査対策が実践できる①
23回目	認定実技審査について理解し、実技練習が実践できる
22回目	礼法・前回受身・形・約束乱取の補足、実技練習を実践できる
21回目	試験解説、評価を受けての振り返りをし、改善点を理解・実践できる

学 科: 柔道整復科

	実践臨床柔道整復学	必修 選択	20.00	年次	3	担当教員	複数の専任教員	
科目名(英)			必修			実務経験		
121		授業	講報	総時間	120	開講区分	後期	
コース	共通	影態	109.4%	(単位)	6	曜日・時限		

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 楽道整復師の臨床現場にて必要な知識(解剖・生理・運動・衛生・公衆衛生・病理・法規・外科・リハビリテーション・一般臨床・整形外科・楽道整復)を深め、現場に出た 時に即載力となる為の学習

【到速自經

患者が未除されて時の様々なシチュエーチョンの中で、患者とのコミュニケーションに必要な各科目の知識や国家試験を受験するにあたって必要な知識が習得できているかを確認することを目的とする。 到達目標は国家試験に合格できるレベルとする。

	授業計画・内容	
1回目	診察各論(視診、打診、聴診、触診、生命徴候、感覚検査、反射検査、臨床症状)について説明できる	
20日	上肢損傷、下肢損傷について説明できる	
308	体液・神経の生理について説明できる	
4回目	整形外科 診察法・検査法について説明できる	
5回目	頭部・体幹の軟部組織損傷について説明できる	
6回目	頭部・体幹の骨折と脱臼について説明できる	
7回目	呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、代謝疾患、内分泌疾患について説明できる	
8回目	頚肩腕症候群・腰痛について説明できる	
900	筋・循環器系・呼吸器系の生理について説明できる	
10回目	整形外科 治療法について説明できる	
11回目	上肢の軟部組織損傷について説明できる①	
12回目	上肢の骨折と脱臼について説明できる①	
13回目	血液・造血器疾患、腎・尿路疾患、神経疾患、惡染症、リウマチ、膠原病、その他について説明できる	
14回日	肋骨骨折、アキレス腱断裂について説明できる	
15回目	消化と吸収・栄養と代謝の生理について説明できる	
16回日	整形外科 総論について説明できる	
17回目	上肢の軟部組織損傷について説明できる②	
18回目	上肢の骨折と脱臼について説明できる②	
19回目	細胞傷害、循環障害、進行性病変について説明できる	
20回目	介護保険法について説明できる①	
21回目	体温調節・内分泌機能と生殖の生理について説明できる	
22回目	スポーツ整形外科 総論について説明できる	
23回目	上肢の軟部組織損傷について説明できる③	
24回目	上肢の骨折と脱臼について説明できる③	
25回目	炎症、アレルギー、腫瘍、先天性異常、病因について説明できる	
26回目	介護保険法について説明できる②	
27回目	腎機能と構造の生理について説明できる	
28回日	整形外科 疾患別各論について説明できる①	
29回目	上肢の軟部組織損傷について説明できる④	
30回目	上肢の骨折と脱臼について説明できる④	

_	
3101	外科学 総論について説明できる
32回目	障害者スポーツについて説明できる①
33回目	疾病予防と健康管理、感染症の予防について説明できる
34回目	整形外科 疾患別各論について説明できる②
35回目	下肢の軟部組織損傷について説明できる①
36回目	下肢の骨折と脱臼について説明できる①
37回目	外科学 各論について説明できる
3800 🗎	障害者スポーツについて説明できる②
39@ 🗒	消毒、環境衛生について説明できる
40回目	整形外科 身体別各論について説明できる①
41回目	下肢の軟部組織損傷について説明できる②
42回目	下肢の骨折と脱臼について説明できる②
43回目	衛生行政と保健医療の制度について説明できる(関係する法律について説明できる)
44回目	リハビリテーション 問題演習
45@ 🛙	母子保健・学校保健・産業保健について説明できる
46@ B	整形外科 身体別各論について説明できる②
47回目	下肢の軟部組織損傷について説明できる③
48回目	下肢の骨折と脱臼について説明できる③
49⊠ 🛭	本講義の内容について理解し説明できる①
50回目	本講義の内容について理解し説明できる②
5100	本講義の内容について理解し説明できる③
52回目	本講義の内容について理解し説明できる④
53回目	本講義の内容について理解し説明できる⑤
540日	本講義の内容について理解し説明できる⑥
55回目	本講義の内容について理解し説明できる⑦
560 🛙	本講義の内容について理解し説明できる(8)
57回目	実践柔道整復学の演習①
58回目	実践柔道整復学の演習②
59回目	実践柔道整復学の演習③
60回目	実践柔道整復学の演習④
準備学習 時間外学習	事前に教科書、配布資料をよく読んでおくこと
評価方法	科目認定試験100%
受講生への メッセージ	在学3年間で学んだことの集大成として、国家試験を受験するにあたって必要な知識がしっかり身についているかを確認する講義です。 理解が不十分なところを再度確認し、国家試験に挑めるよう最番を尽くしてください。
【使用教科	書·教材·参考書]
全国柔道整	複学校協会監修 教科書